

# FDPS Fortran インタフェース ユーザチュートリアル

行方大輔, 岩澤全規, 似鳥啓吾, 谷川衝, 村主崇行, Long Wang, 細野七月, and  
牧野淳一郎

理化学研究所 計算科学研究機構 粒子系シミュレータ研究チーム

## 0 目次

---

1	変更記録	4
2	概要	5
3	入門：サンプルコードを動かしてみよう	6
3.1	動作環境	6
3.2	必要なソフトウェア	6
3.2.1	標準機能	6
3.2.1.1	逐次処理	6
3.2.1.2	並列処理	6
3.2.1.2.1	OpenMP	7
3.2.1.2.2	MPI	7
3.2.1.2.3	MPI+OpenMP	7
3.2.2	拡張機能	8
3.2.2.1	Particle Mesh	8
3.3	インストール	8
3.3.1	取得方法	8
3.3.1.1	最新バージョン	8
3.3.1.2	過去のバージョン	9
3.3.2	インストール方法	9
3.4	サンプルコードの使用方法	9
3.4.1	重力 $N$ 体シミュレーションコード	9
3.4.1.1	概要	10
3.4.1.2	ディレクトリ移動	10
3.4.1.3	Makefile の編集	10

3.4.1.4	<code>make</code> の実行	13
3.4.1.5	実行	13
3.4.1.6	結果の解析	13
3.4.2	SPH シミュレーションコード	14
3.4.2.1	概要	15
3.4.2.2	ディレクトリ移動	15
3.4.2.3	Makefile の編集	15
3.4.2.4	<code>make</code> の実行	15
3.4.2.5	実行	15
3.4.2.6	結果の解析	16
4	サンプルコードの解説	17
4.1	$N$ 体シミュレーションコード	17
4.1.1	ソースファイルの場所と構成	17
4.1.2	ユーザー定義型・ユーザ定義関数	17
4.1.2.1	FullParticle 型	17
4.1.2.2	関数 <code>calcForceEpEp</code>	19
4.1.2.3	関数 <code>calcForceEpSp</code>	20
4.1.3	プログラム本体	21
4.1.3.1	<code>fdps_controller</code> 型オブジェクトの生成	21
4.1.3.2	開始、終了	22
4.1.3.3	オブジェクトの生成・初期化	22
4.1.3.3.1	オブジェクトの生成	22
4.1.3.3.2	領域情報オブジェクトの初期化	23
4.1.3.3.3	粒子群オブジェクトの初期化	23
4.1.3.3.4	ツリーオブジェクトの初期化	23
4.1.3.4	粒子データの初期化	24
4.1.3.5	ループ	25
4.1.3.5.1	領域分割の実行	25
4.1.3.5.2	粒子交換の実行	25
4.1.3.5.3	相互作用計算の実行	25
4.1.3.5.4	時間積分	26
4.1.3.6	粒子データの更新	27
4.1.4	ログファイル	27
4.2	固定長 SPH シミュレーションコード	28
4.2.1	ソースファイルの場所と構成	28
4.2.2	ユーザー定義型・ユーザ定義関数	28
4.2.2.1	FullParticle 型	28
4.2.2.2	EssentialParticleI 型	29
4.2.2.3	Force 型	30
4.2.2.4	関数 <code>calcForceEpEp</code>	31

---

4.2.3	プログラム本体	33
4.2.3.1	fdps_controller 型オブジェクトの生成	34
4.2.3.2	開始、終了	34
4.2.3.3	初期化	34
4.2.3.3.1	オブジェクトの生成	34
4.2.3.3.2	領域情報オブジェクトの初期化	35
4.2.3.3.3	粒子群オブジェクトの初期化	35
4.2.3.3.4	ツリーオブジェクトの初期化	36
4.2.3.4	ループ	36
4.2.3.4.1	領域分割の実行	36
4.2.3.4.2	粒子交換の実行	36
4.2.3.4.3	相互作用計算の実行	36
4.2.4	コンパイル	37
4.2.5	実行	37
4.2.6	ログファイル	37
4.2.7	可視化	38
5	サンプルコード	39
5.1	$N$ 体シミュレーション	39
5.2	固定長 SPH シミュレーション	48
6	ユーザーサポート	64
6.1	コンパイルできない場合	64
6.2	コードがうまく動かない場合	64
6.3	その他	64
7	ライセンス	65

## 1 変更記録

---

- 2016/12/22
  - － 作成および初期リリース (FDPS バージョン 3.0 として)

## 2 概要

本節では、Framework for Developing Particle Simulator (FDPS) および FDPS Fortran インターフェースの概要について述べる。FDPS は粒子シミュレーションのコード開発を支援するフレームワークである。FDPS が行うのは、計算コストの最も大きな粒子間相互作用の計算と、粒子間相互作用の計算のコストを負荷分散するための処理である。これらはマルチプロセス、マルチスレッドで並列に処理することができる。比較的計算コストが小さく、並列処理を必要としない処理 (粒子の軌道計算など) はユーザーが行う。

FDPS が対応している座標系は、2次元直交座標系と3次元直交座標系である。また、境界条件としては、開放境界条件と周期境界条件に対応している。周期境界条件の場合、 $x$ 、 $y$ 、 $z$  軸方向の任意の組み合わせの周期境界条件を課すことができる。

ユーザーは粒子間相互作用の形を定義する必要がある。定義できる粒子間相互作用の形には様々なものがある。粒子間相互作用の形を大きく分けると2種類あり、1つは長距離力、もう1つは短距離力である。この2つの力は、遠くの複数の粒子からの作用を1つの超粒子からの作用にまとめるか (長距離力)、まとめないか (短距離力) という基準でもって分類される。

長距離力には、小分類があり、無限遠に存在する粒子からの力も計算するカットオフなし長距離力と、ある距離以上離れた粒子からの力は計算しないカットオフあり長距離力がある。前者は開境界条件下における重力やクーロン力に対して、後者は周期境界条件下の重力やクーロン力に使うことができる。後者のためには Particle Mesh 法などが必要となるが、これは FDPS の拡張機能として用意されている。

短距離力には、小分類が4つ存在する。短距離力の場合、粒子はある距離より離れた粒子からの作用は受けない。すなわち必ずカットオフが存在する。このカットオフ長の決め方によって、小分類がなされる。すなわち、全粒子のカットオフ長が等しいコンスタントカーネル、カットオフ長が作用を受ける粒子固有の性質で決まるギャザーカーネル、カットオフ長が作用を与える粒子固有の性質で決まるスキッターカーネル、カットオフ長が作用を受ける粒子と作用を与える粒子の両方の性質で決まるシンメトリックカーネルである。コンスタントカーネルは分子動力学における LJ 力に適用でき、その他のカーネルは SPH などに適用できる。

ユーザーは、粒子間相互作用や粒子の軌道積分などを、Fortran 2003 言語を用いて記述する。

## 3 入門：サンプルコードを動かしてみよう

本節では、まずはじめに、FDPS および FDPS Fortran インターフェースの動作環境、必要なソフトウェア、インストール方法などを説明し、その後、サンプルコードの使用方法を説明する。サンプルコードの中身に関しては、次節(第4節)で詳しく述べる。

### 3.1 動作環境

FDPS は Linux, Mac OS X, Windows などの OS 上で動作する。

### 3.2 必要なソフトウェア

本節では、FDPS を使用する際に必要となるソフトウェアを記述する。まず標準機能を用いるのに必要なソフトウェア、次に拡張機能を用いるのに必要なソフトウェアを記述する。

#### 3.2.1 標準機能

本節では、FDPS の標準機能のみを使用する際に必要なソフトウェアを記述する。最初に逐次処理機能のみを用いる場合（並列処理機能を用いない場合）に必要なソフトウェアを記述する。次に並列処理機能を用いる場合に必要なソフトウェアを記述する。

##### 3.2.1.1 逐次処理

逐次処理の場合に必要なソフトウェアは以下の通りである。

- make
- C++コンパイラ (gcc バージョン 4.4.5 以降なら確実, K コンパイラバージョン 1.2.0 で動作確認済)
- Fortran コンパイラ (Fortran 2003 標準をサポートし、上記 C++コンパイラと相互運用可能なもの。gcc 4.8.3 以降の gfortran なら確実)
- Python 2.7.5 以上、または、Python 3.4 以上 (これ以外での正常動作は保証しない。特に、Python 2.7 以前では動作しない)

##### 3.2.1.2 並列処理

本節では、FDPS の並列処理機能を用いる際に必要なソフトウェアを記述する。まず、OpenMP を使用する際に必要なソフトウェア、次に MPI を使用する際に必要なソフトウェア、最後に OpenMP と MPI を同時に使用する際に必要なソフトウェアを記述する。

#### 3.2.1.2.1 *OpenMP*

OpenMP を使用する際に必要なソフトウェアは以下の通り。

- make
- OpenMP 対応の C++コンパイラ (gcc version 4.4.5 以降なら確実, K コンパイラバージョン 1.2.0 で動作確認済)
- OpenMP 対応の Fortran コンパイラ (Fortran 2003 標準をサポートし、上記 C++コンパイラと相互運用可能なもの。gcc 4.8.3 以降なら確実)
- Python 2.7.5 以上、または、Python 3.4 以上 (これ以外での正常動作は保証しない。特に、Python 2.7 以前では動作しない)

#### 3.2.1.2.2 *MPI*

MPI を使用する際に必要なソフトウェアは以下の通り。

- make
- MPI version 1.3 対応の C++コンパイラ (Open MPI 1.8.1 で動作確認済, K コンパイラバージョン 1.2.0 で動作確認済)
- MPI version 1.3 対応の Fortran コンパイラ (Fortran 2003 標準をサポートし、上記 C++コンパイラと相互運用可能なもの。Open MPI 1.6.4 で動作確認済み)
- Python 2.7.5 以上、または、Python 3.4 以上 (これ以外での正常動作は保証しない。特に、Python 2.7 以前では動作しない)

#### 3.2.1.2.3 *MPI+OpenMP*

MPI と OpenMP を同時に使用する際に必要なソフトウェアは以下の通り。

- make
- MPI version 1.3 と OpenMP に対応の C++コンパイラ (Open MPI 1.8.1 で動作確認済, K コンパイラバージョン 1.2.0 で動作確認済)
- MPI version 1.3 と OpenMP に対応の Fortran コンパイラ (Fortran 2003 標準をサポートし、上記 C++コンパイラと相互運用可能なもの。Open MPI 1.6.4 で動作確認済み)
- Python 2.7.5 以上、または、Python 3.4 以上 (これ以外での正常動作は保証しない。特に、Python 2.7 以前では動作しない)

### 3.2.2 拡張機能

本節では、FDPS の拡張機能を使用する際に必要なソフトウェアについて述べる。FDPS の拡張機能には Particle Mesh がある。以下では Particle Mesh を使用する際に必要なソフトウェアを述べる。

#### 3.2.2.1 Particle Mesh

Particle Mesh を使用する際に必要なソフトウェアは以下の通りである。

- make
- MPI version 1.3 と OpenMP に対応の C++ コンパイラ (Open MPI 1.8.1 で動作確認済)
- FFTW 3.3 以降

## 3.3 インストール

本節では、FDPS および FDPS Fortran インターフェースのインストールについて述べる。取得方法、ビルド方法について述べる。

### 3.3.1 取得方法

ここでは FDPS の取得方法を述べる。最初に最新バージョンの取得方法、次に過去のバージョンの取得方法を述べる。

#### 3.3.1.1 最新バージョン

以下の方法のいずれかで FDPS の最新バージョンを取得できる。

- ブラウザから
  1. ウェブサイト <https://github.com/FDPS/FDPS> で "Download ZIP" をクリックし、ファイル FDPS-master.zip をダウンロード
  2. FDPS を展開したいディレクトリに移動し、圧縮ファイルを展開
- コマンドラインから
  - Subversion を用いる場合：以下のコマンドを実行するとディレクトリ trunk の下を Subversion レポジトリとして使用できる

```
$ svn co --depth empty https://github.com/FDPS/FDPS
$ cd FDPS
$ svn up trunk
```



- Git を用いる場合：以下のコマンドを実行するとカレントディレクトリにディレクトリ FDPS ができ、その下を Git のレポジトリとして使用できる

```
$ git clone git://github.com/FDPS/FDPS.git
```

### 3.3.1.2 過去のバージョン

以下の方法でブラウザから FDPS の過去のバージョンを取得できる。

- ウェブサイト <https://github.com/FDPS/FDPS/releases> に過去のバージョンが並んでいるので、ほしいバージョンをクリックし、ダウンロード
- FDPS を展開したいディレクトリに移動し、圧縮ファイルを展開

### 3.3.2 インストール方法

C++言語で記述された FDPS 本体はヘッダライブラリ<sup>注 1)</sup>のため、`configure` などを行う必要はない。基本的にはアーカイブを展開したあと、自分のソースファイルをコンパイルする時に適切なインクルードパスを設定すればよい。実際の手続きは第 3.4 節で説明するサンプルコードとその Makefile をみて欲しい。

Fortran の場合、コンパイル前に Fortran ソースファイルから FDPS とのインターフェースコードを生成する必要がある。その手順は仕様書 [doc.spec.ftn-ja.pdf](#) の第 6 章に記述されている。本サンプルコードの Makefile では、インターフェースコードが `make` コマンド実行中に自動的に生成されるようになっている。ユーザが自分のコードの Makefile を作る時にはサンプルコードの Makefile を参考にすることを推奨する。

## 3.4 サンプルコードの使用方法

本節ではサンプルコードの使用方法について説明する。サンプルコードには重力  $N$  体シミュレーションコードと、SPH シミュレーションコードがある。最初に重力  $N$  体シミュレーションコード、次に SPH シミュレーションコードの使用について記述する。サンプルコードは拡張機能を使用していない。

### 3.4.1 重力 $N$ 体シミュレーションコード

本サンプルコードは、FDPS Fortran インターフェースを用いて書かれた無衝突系の  $N$  体計算コードである。このコードでは一様球のコールドコラプス問題を計算し、粒子分布のスナップショットを出力する。

注 1) ヘッダファイルだけで構成されるライブラリのこと

### 3.4.1.1 概要

以下の手順で本コードを使用できる。

- ディレクトリ\$(FDPS)/sample/fortran/nbodyに移動。これ以後、ディレクトリ\$(FDPS)はFDPSの最も上の階層のディレクトリを指す(\$(FDPS)は環境変数にはなっていない)。  
\$(FDPS)はFDPSの取得によって異なり、ブラウザからならFDPS-master, Subversionからならtrunk, GitからならFDPSである。
- カレントディレクトリにあるMakefileを編集
- コマンドライン上でmakeを実行
- nbody.out ファイルの実行
- 結果の解析

### 3.4.1.2 ディレクトリ移動

ディレクトリ\$(FDPS)/sample/fortran/nbodyに移動する。

### 3.4.1.3 Makefileの編集

サンプルコードのディレクトリには2つのMakefileがある。1つはGCC用に書かれたMakefileであり、もう1つはIntelコンパイラ用に書かれたMakefile.intelである。ここではMakefileについて詳しく解説し、Makefile.intelに関しては使用上の注意点を本節最後で述べるのみとする。

まず、Makefileの初期設定について説明する。サンプルコードをコンパイルするにあたって、ユーザが設定すべきMakefile変数は4つあり、Fortranコンパイラを表すFC、C++コンパイラを表すCXX、それぞれのコンパイルオプションを表すFCFLAGS, CXXFLAGSである。これらの初期設定値は次のようになっている:

```
FC=gfortran
CXX=g++
FCFLAGS = -std=f2003 -O3 -ffast-math -funroll-loops -finline-functions
CXXFLAGS = -O3 -ffast-math -funroll-loops $(FDPS_INC)
```

ここで、\$(FDPS\_INC)はFDPS本体をインクルードするために必要なインクルードPATHが格納された変数であり、Makefile内で設定済みである。したがって、ここで変更する必要はない。

上記4つのMakefile変数の値を適切に編集し、makeコマンドを実行することで実行ファイルが得られる。OpenMPとMPIを使用するかどうかで編集方法が変わるため、以下でそれを説明する。

- OpenMP も MPI も使用しない場合
  - 変数 FC に Fortran コンパイラを代入する
  - 変数 CXX に C++コンパイラを代入する
- OpenMP のみ使用の場合
  - 変数 FC に OpenMP 対応の Fortran コンパイラを代入する
  - 変数 CXX に OpenMP 対応の C++コンパイラを代入する
  - FCFLAGS += -DPARTICLE\_SIMULATOR\_THREAD\_PARALLEL -fopenmp の行のコメントアウトを外す
  - CXXFLAGS += -DPARTICLE\_SIMULATOR\_THREAD\_PARALLEL -fopenmp の行のコメントアウトを外す
- MPI のみ使用の場合
  - 変数 FC に MPI 対応の Fortran コンパイラを代入する
  - 変数 CXX に MPI 対応の C++コンパイラを代入する
  - FCFLAGS += -DPARTICLE\_SIMULATOR\_MPI\_PARALLEL の行のコメントアウトを外す
  - CXXFLAGS += -DPARTICLE\_SIMULATOR\_MPI\_PARALLEL の行のコメントアウトを外す
- OpenMP と MPI の同時使用の場合
  - 変数 FC に MPI 対応の Fortran コンパイラを代入する
  - 変数 CXX に MPI 対応の C++コンパイラを代入する
  - FCFLAGS += -DPARTICLE\_SIMULATOR\_THREAD\_PARALLEL -fopenmp の行のコメントアウトを外す
  - FCFLAGS += -DPARTICLE\_SIMULATOR\_MPI\_PARALLEL の行のコメントアウトを外す
  - CXXFLAGS += -DPARTICLE\_SIMULATOR\_THREAD\_PARALLEL -fopenmp の行のコメントアウトを外す
  - CXXFLAGS += -DPARTICLE\_SIMULATOR\_MPI\_PARALLEL の行のコメントアウトを外す

次に、ユーザが本 Makefile をユーザコードで使用する場合に便利な情報を記述する。ユーザコードで使用する場合に最も重要となる Makefile 変数は、FDPS\_LOC, SRC\_USER\_DEFINED\_TYPE, SRC\_USER の3つである。まず、変数 FDPS\_LOC には、FDPS のトップディレクトリの PATH を格納する。本 Makefile では、FDPS のソースディレクトリの PATH や Fortran とのインターフェースコードを生成するスクリプトの PATH 等、FDPS に関連する各種な設定がこの変数の値に基いて自動的に設定されるようになっている。したがって、

ユーザは適切に設定する必要がある。次に、変数 `SRC_USER_DEFINED_TYPE`, `SRC_USER` には、それぞれ、ユーザ定義型が記述された Fortran ファイル名と、ユーザ定義型以外の部分が記述された Fortran ファイル名を格納する。FDPS の Fortran インターフェースコードはユーザコードのクラス (派生型) を記述する部分から生成されるので、その部分が記述されたファイルを `SRC_USER_DEFINED_TYPE` で、それ以外を `SRC_USER` で指定する。これにより、`SRC_USER` で指定したファイルが変更されても FDPS の再コンパイルは起きなくなるので、コンパイル・リンクの時間が短くなる。但し、`SRC_USER_DEFINED_TYPE`、或いは、`SRC_USER` に格納された (複数の) ファイルの間に依存関係がある場合、依存関係を示すルールを Makefile に追記しなければならない点に注意して頂きたい。この記述方法に関しては、例えば、GNU make のマニュアル等を読んで頂きたい。

最後に、`Makefile.intel` を使用する上での注意点について説明する。変数の初期値が異なる点を除き、`Makefile.intel` の構造は `Makefile` と同じである。したがって、変数の値をユーザが利用する計算機システムにおける値に適切に設定すれば、`Makefile` と同様に利用可能である。以下に変更する上での注意点を述べる：

- `/opt/intel/bin` を、利用する計算機システムにおける Intel コンパイラの格納ディレクトリの `PATH` に変更する。
- `/opt/intel/include` を、Intel コンパイラに付属するヘッダファイル群を格納したディレクトリの `PATH` に変更する。
- `Makefile.intel` の `LD_FLAGS` は、`-L/opt/intel/lib/intel64 -L/usr/lib64 -lifport -lifcore -limf -lsvml -lm -lipgo -lirc -lirc_s` となっている。  
この中の `-lifcore` <sup>注2)</sup> は、C++ コンパイラで C++ オブジェクトと Fortran オブジェクトをリンクするため必要である <sup>注3)</sup>。計算機システムのライブラリパスに、Intel コンパイラのライブラリ群が登録されていない場合、さらに、`-L/opt/intel/lib/intel64 -L/usr/lib64 -lifport -limf -lsvml -lm -lipgo -lirc -lirc_s` のような指定が必要である。  
ここで、`/opt/intel/lib/intel64` は、Intel コンパイラのライブラリ群が格納されたディレクトリの `PATH` で、`/usr/lib64` はライブラリ `libm` を格納したディレクトリの `PATH` である。これらは利用する計算機システムに合わせて修正する必要がある。コンパイルに必要なライブラリ群 (`-l*`) は、Intel コンパイラのバージョンによって変わる可能性があるので確認して頂きたい。
- 本書を執筆時点 (2016/12/26) で、Intel コンパイラで OpenMP を有効にするオプションは `-openmp`、或いは、`-qopenmp` である。これは Intel コンパイラのバージョンによって異なり、より新しいバージョンのコンパイラは後者を使用する (前者を使用した場合、廃止予定の警告が出る)。
- 利用する計算機システムによっては、`-lifcore` の指定以外の設定が環境変数 (`PATH`, `CPATH`, `LD_LIBRARY_PATH` 等として) で既に行われていることもありえる。

注2) `libifcore` は、Fortran ランタイムライブラリである。

注3) Intel コンパイラ (バージョン 17.0.0 20160721) において確認。

### 3.4.1.4 make の実行

make コマンドを実行する。このとき、まず FDPS の Fortran インターフェースプログラムが生成され、その後、インターフェースプログラムとサンプルコードと一緒にコンパイルされている。

### 3.4.1.5 実行

実行方法は以下の通りである。

- MPI を使用しない場合、コマンドライン上で以下のコマンドを実行する

```
$ ./nbody.out
```

- MPI を使用する場合、コマンドライン上で以下のコマンドを実行する

```
$ MPIRUN -np NPROC ./nbody.out
```

ここで、MPIRUN には mpirun や mpiexec などが、NPROC には使用する MPI プロセスの数が入る。

正しく終了すると、標準出力は以下のようなログを出力する。energy error は絶対値で  $1 \times 10^{-3}$  のオーダーに収まっていればよい。

```
time:      9.5000000000E+000, energy error:   -3.8046534069E-003
time:      9.6250000000E+000, energy error:   -3.9711750200E-003
time:      9.7500000000E+000, energy error:   -3.8223429428E-003
time:      9.8750000000E+000, energy error:   -3.8843099298E-003
***** FDPS has successfully finished. *****
```

### 3.4.1.6 結果の解析

ディレクトリ result に粒子分布を出力したファイル "snap0000x-proc0000y.dat" ができている。ここで x は整数で時刻に対応している。y は MPI プロセス番号を表しており、MPI 実行しなければ常に y=0 である。出力ファイルフォーマットは 1 列目から順に粒子の ID, 粒子の質量、位置の x, y, z 座標、粒子の x, y, z 軸方向の速度である。

ここで実行したのは、粒子数 1024 個からなる一様球 (半径 3) のコールドコラプスである。コマンドライン上で以下のコマンドを実行すれば、時刻 9 における xy 平面に射影した粒子分布を見ることができる。

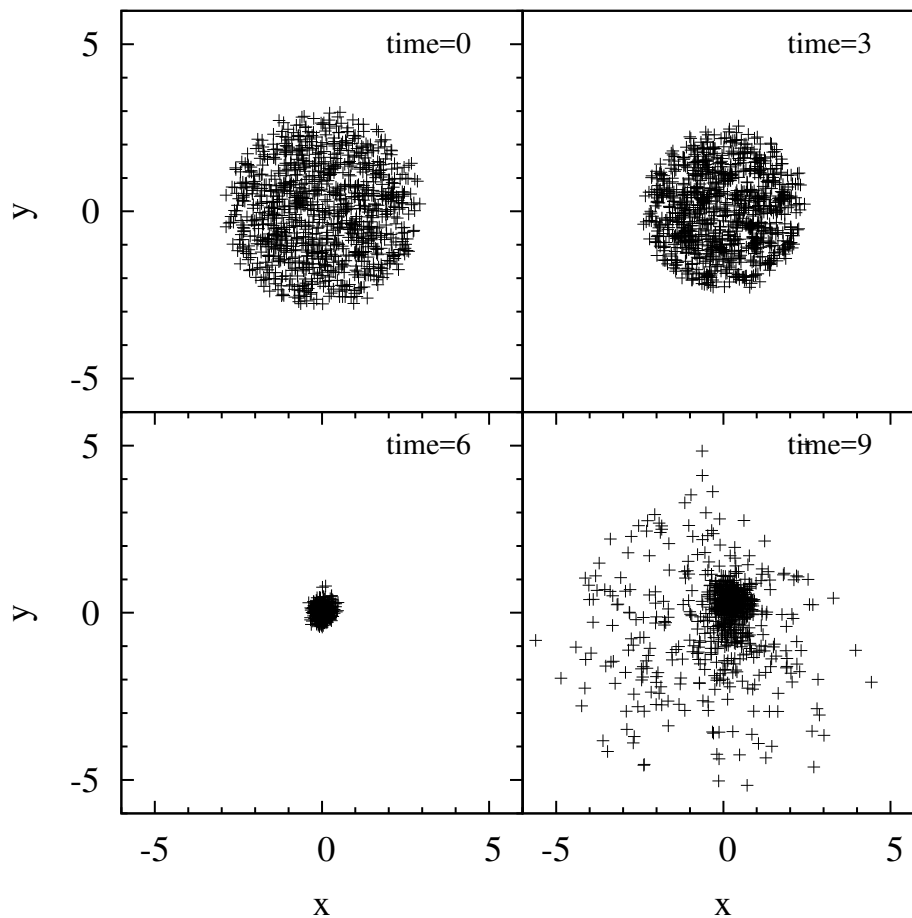


図 1:

```
$ cd result
$ cat snap00009-proc* > snap00009.dat
$ gnuplot
> plot "snap00009.dat" using 3:4
```

他の時刻の粒子分布をプロットすると、一様球が次第に収縮し、その後もう一度膨張する様子を見ることができる (図 1 参照)。

粒子数を 10000 個にして計算を行いたい場合には、ファイル `f_main.F90` 中のサブルーチン `f_main()` のパラメータ変数 `ntot` を 10000 に設定し、再度、コンパイルした上で実行すればよい。

### 3.4.2 SPH シミュレーションコード

本サンプルコードには標準 SPH 法が FDPS を使って実装されている。簡単のため、smoothing length は一定値を取ると仮定している。コードでは、3 次元の衝撃波管問題の初期条件を生成し、衝撃波管問題を実際に計算する。

### 3.4.2.1 概要

以下の手順で本コードを使用できる。

- ディレクトリ\$(FDPS)/sample/fortran/sph に移動
- カレントディレクトリにある Makefile を編集 (後述)
- コマンドライン上で make を実行
- sph.out ファイルの実行 (後述)
- 結果の解析 (後述)

### 3.4.2.2 ディレクトリ移動

ディレクトリ\$(FDPS)/sample/fortran/sph に移動する。

### 3.4.2.3 Makefile の編集

SPH サンプルコードにも、 $N$  体計算のサンプルコードの場合と同様、GCC と Intel コンパイラ用に 2 種類の Makefile が用意されている。編集の仕方は、 $N$  体計算の場合と同一なので、第 3.4.1.3 節を参照されたい。

### 3.4.2.4 make の実行

make コマンドを実行する。 $N$  体計算のときと同様、このとき、まず FDPS の Fortran インターフェースプログラムが生成され、その後、インターフェースプログラムとサンプルコードと一緒にコンパイルされている。

### 3.4.2.5 実行

実行方法は以下の通りである。

- MPI を使用しない場合、コマンドライン上で以下のコマンドを実行する

```
$ ./sph.out
```

- MPI を使用する場合、コマンドライン上で以下のコマンドを実行する

```
$ MPIRUN -np NPROC ./sph.out
```

ここで、MPIRUN には mpirun や mpiexec などが、NPROC には使用する MPI プロセスの数が入る。

正しく終了すると、標準出力は以下のようなログを出力する。

```
***** FDPS has successfully finished. *****
```

### 3.4.2.6 結果の解析

実行するとディレクトリ `result` にファイルが出力されている。ファイル名は `snap0000x-proc0000y.dat` となっている。ここで、`x,y` は整数で、それぞれ、時刻と MPI プロセス番号を表す。MPI 実行でない場合には、常に `y=0` である。出力ファイルフォーマットは 1 列目から順に粒子の ID、粒子の質量、位置の `x, y, z` 座標、粒子の `x, y, z` 軸方向の速度、密度、内部エネルギー、圧力である。

コマンドライン上で以下のコマンドを実行すれば、横軸に粒子の `x` 座標、縦軸に粒子の密度をプロットできる (時刻は 40)。

```
$ cd result
$ cat snap00040-proc* > snap00040.dat
$ gnuplot
> plot "snap00040.dat" using 3:9
```

正しい答が得られれば、図 2 のような図を描ける。

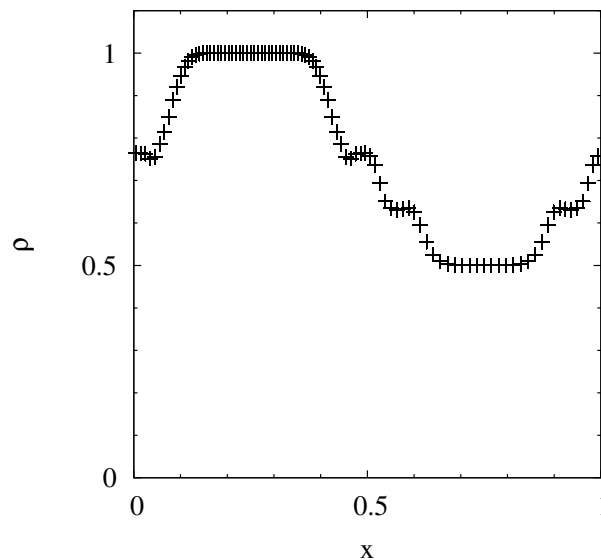


図 2: 衝撃波管問題の時刻  $t = 40$  における密度分布



## 4 サンプルコードの解説

本節では、前節(第3節)で動かしたサンプルコードについての解説を行う。特に、ユーザーが定義しなければならない派生データ型(以後、**ユーザー定義型**と呼ぶ)やFDPSの各種APIの使い方について詳しく述べる。説明の重複を避けるため、いくつかの事項に関しては、その詳細な説明がN体シミュレーションコードの節でのみ行われている。そのため、SPHシミュレーションだけに興味があるユーザーも、N体シミュレーションコードの節に目を通して頂きたい。

### 4.1 N体シミュレーションコード

#### 4.1.1 ソースファイルの場所と構成

ソースファイルは\$(FDPS)/sample/fortran/nbody 以下にある。サンプルコードは、次節で説明するユーザー定義型が記述されたソースコード `user_defined.F90` と、N体シミュレーションのメインループ等が記述されたソースコード `f_main.F90` から構成される。この他に、GCCとIntelコンパイラ用のMakefileである `Makefile` と `Makefile.intel` がある。

#### 4.1.2 ユーザー定義型・ユーザー定義関数

本節では、FDPSの機能を用いてN体計算を行う際、ユーザーが記述しなければならないFortranの派生データ型とサブルーチンについて記述する。

##### 4.1.2.1 FullParticle 型

ユーザーはユーザー定義型の1つ `FullParticle` 型を記述しなければならない。`FullParticle` 型には、シミュレーションを行うにあたって、N体粒子が持っているべき全ての物理量が含まれている。Listing 1に本サンプルコードの `FullParticle` 型の実装例を示す(`user_defined.F90`を参照)。

Listing 1: `FullParticle` 型

```

1  !**** Full particle type
2  type, public, bind(c) :: full_particle !$fdps FP,EPI,EPJ,Force
3      !$fdps copyFromForce full_particle (pot,pot) (acc,acc)
4      !$fdps copyFromFP full_particle (id,id) (mass,mass) (eps,eps) (pos,
        pos)
5      !$fdps clear id=keep, mass=keep, eps=keep, pos=keep, vel=keep
6      integer(kind=c_long_long) :: id
7      real(kind=c_double) mass !$fdps charge
8      real(kind=c_double) :: eps
9      type(fdps_f64vec) :: pos !$fdps position
10     type(fdps_f64vec) :: vel !$fdps velocity
11     real(kind=c_double) :: pot
12     type(fdps_f64vec) :: acc

```

13      `end type full_particle`

FDPS Fortran インターフェースを使ってユーザコードを開発する場合、ユーザは派生データ型がどのユーザ定義型 (FullParticle 型, EssentialParticleI 型, EssentialParticleJ 型, Force 型) に対応するかを FDPS に教えなければならない。本 Fortran インターフェースにおいて、この指示は、派生データ型名に決まった書式のコメント文を加えることによって行う (以後、この種のコメント文を **FDPS 指示文**と呼ぶ)。本サンプルコードでは、FullParticle 型が EssentialParticleI 型、EssentialParticleJ 型、そして、Force 型を兼ねている。そのため、派生データ型がすべてのユーザ定義型に対応すること指示する以下のコメント文を記述している:

```
type, public, bind(c) :: full_particle !$fdps FP,EPI,EPJ,Force
```

また、FDPS は FullParticle 型のどのメンバ変数が質量や位置等の**必須物理量** (どの粒子計算でも必ず必要となる物理量、或いは、特定の粒子計算において必要とされる物理量と定義する) に対応するのかわかっていなければならない。この指示も決まった書式のコメント文をメンバ変数に対して記述することで行う。今回の例では、メンバ変数 `mass`, `pos`, `vel` が、それぞれ、質量、位置、速度に対応することを FDPS に指示するため、以下の指示文が記述されている:

```
real(kind=c_double) :: mass !$fdps charge
type(fdps_f64vec) :: pos !$fdps position
type(fdps_f64vec) :: vel !$fdps velocity
```

ただし、メンバ変数が速度であることを指示する `!$fdps velocity` は予約語であり、指示は任意である (現時点で FDPS の振舞に一切影響しない)。

FullParticle 型は EssentialParticleI 型、EssentialParticleJ 型、Force 型との間でデータの移動 (データコピー) を行う。ユーザはこのコピーの仕方を指示する FDPS 指示文も記述しなければならない。本サンプルコードでは、以下のように記述している:

```
!$fdps copyFromForce full_particle (pot,pot) (acc,acc)
!$fdps copyFromFP full_particle (id,id) (mass,mass) (eps,eps) (pos,pos)
```

ここで、キーワード `copyFromForce` を含む指示文は、Force 型のどのメンバ変数を FullParticle 型のどのメンバ変数にコピーするかを指示するもので、FullParticle 型に常に記述しなければならない指示文である。一方、キーワード `copyFromFP` は FullParticle 型から EssentialParticleI 型および EssentialParticleJ 型へのデータコピーの仕方を指示するもので、EssentialParticleI 型と EssentialParticleJ 型には必ず記述しなければならない指示文である。今、FullParticle 型はこれら 2 つを兼ねているため、ここに記述している。

今、FullParticle 型は Force 型を兼ねている。Force 型にも必ず記述しなければならない指示文がある。それは、相互作用計算において、積算対象のメンバ変数をどのように 0 クリアするかを指示する指示文である。本サンプルコードでは、積算対象である加速度とポテンシャルのみを 0 クリアすることを指示するため、次の指示文を記述している:

```
!$fdps clear id=keep, mass=keep, eps=keep, pos=keep, vel=keep
```

ここで、キーワード `clear` の右に記述された構文 `mbr=keep` は、メンバ変数 `mbr` の値を変更しないことを指示する構文である。

FDPS 指示文の書式の詳細については、仕様書 `doc_specs_ftn_ja.pdf` をご覧頂きたい。

#### 4.1.2.2 関数 `calcForceEpEp`

ユーザーは粒子間相互作用の仕方を記述した関数 `calcForceEpEp` を記述しなければならない。関数 `calcForceEpEp` には、粒子-粒子相互作用計算の具体的な内容を書く必要があり、Fortran のサブルーチンとして実装しなければならない。Listing 2 に、本サンプルコードの関数 `calcForceEpEp` を示す (`user_defined.F90` を参照)。

Listing 2: 関数 `calcForceEpEp`

```
1  !**** Interaction function (particle-particle)
2  subroutine calc_gravity_pp(ep_i,n_ip,ep_j,n_jp,f) bind(c)
3      integer(c_int), intent(in), value :: n_ip,n_jp
4      type(full_particle), dimension(n_ip), intent(in) :: ep_i
5      type(full_particle), dimension(n_jp), intent(in) :: ep_j
6      type(full_particle), dimension(n_ip), intent(inout) :: f
7      !* Local variables
8      integer(c_int) :: i,j
9      real(c_double) :: eps2,poti,r3_inv,r_inv
10     type(fdps_f64vec) :: xi,ai,rij
11
12     !* Compute force
13     do i=1,n_ip
14         eps2 = ep_i(i)%eps * ep_i(i)%eps
15         xi = ep_i(i)%pos
16         ai = 0.0d0
17         poti = 0.0d0
18         do j=1,n_jp
19             rij%x = xi%x - ep_j(j)%pos%x
20             rij%y = xi%y - ep_j(j)%pos%y
21             rij%z = xi%z - ep_j(j)%pos%z
22             r3_inv = rij%x*rij%x &
23                 + rij%y*rij%y &
24                 + rij%z*rij%z &
25                 + eps2
26             r_inv = 1.0d0/sqrt(r3_inv)
27             r3_inv = r_inv * r_inv
28             r_inv = r_inv * ep_j(j)%mass
29             r3_inv = r3_inv * r_inv
30             ai%x = ai%x - r3_inv * rij%x
31             ai%y = ai%y - r3_inv * rij%y
32             ai%z = ai%z - r3_inv * rij%z
33             poti = poti - r_inv
34             ! [IMPORTANT NOTE]
35             !   In the innermost loop, we use the components of vectors
36             !   directly for vector operations because of the following
37             !   reason. Except for intel compilers with '-ipo' option,
```

---

```

38      !    most of Fortran compilers use function calls to perform
39      !    vector operations like rij = x - ep_j(j)%pos.
40      !    This significantly slows down the speed of the code.
41      !    By using the components of vector directly, we can avoid
42      !    these function calls.
43      end do
44      f(i)%pot = f(i)%pot + poti
45      f(i)%acc = f(i)%acc + ai

```

---

本サンプルコードでは、サブルーチン `calc_gravity_pp` として実装されている。サブルーチンの仮引数は、`EssentialParticleI` の配列、`EssentialParticleI` の個数、`EssentialParticleJ` の配列、`EssentialParticleJ` の個数、`Force` 型の配列である。本サンプルコードでは、`FullParticle` 型がすべてのユーザ定義型を兼ねているため、引数のデータ型はすべて `full_particle` 型となっていることに注意して頂きたい。

#### 4.1.2.3 関数 `calcForceEpSp`

ユーザーは粒子-超粒子間相互作用の仕方を記述した関数 `calcForceEpSp` を記述しなければならない。関数 `calcForceEpSp` には、粒子-超粒子相互作用計算の具体的な内容を書く必要があり、Fortran のサブルーチンとして実装しなければならない。Listing 3 に、本サンプルコードの関数 `calcForceEpSp` を示す (`user_defined.F90` を参照)。

Listing 3: 関数 `calcForceEpSp`

---

```

1
2  end subroutine calc_gravity_pp
3
4  !**** Interaction function (particle-super particle)
5  subroutine calc_gravity_psp(ep_i,n_ip,ep_j,n_jp,f) bind(c)
6      integer(c_int), intent(in), value :: n_ip,n_jp
7      type(full_particle), dimension(n_ip), intent(in) :: ep_i
8      type(fdps_spj_monopole), dimension(n_jp), intent(in) :: ep_j
9      type(full_particle), dimension(n_ip), intent(inout) :: f
10     !* Local variables
11     integer(c_int) :: i,j
12     real(c_double) :: eps2,poti,r3_inv,r_inv
13     type(fdps_f64vec) :: xi,ai,rij
14
15     do i=1,n_ip
16         eps2 = ep_i(i)%eps * ep_i(i)%eps
17         xi = ep_i(i)%pos
18         ai = 0.0d0
19         poti = 0.0d0
20         do j=1,n_jp
21             rij%x = xi%x - ep_j(j)%pos%x
22             rij%y = xi%y - ep_j(j)%pos%y
23             rij%z = xi%z - ep_j(j)%pos%z
24             r3_inv = rij%x*rij%x &
25                     + rij%y*rij%y &
26                     + rij%z*rij%z &
27                     + eps2
28             r_inv = 1.0d0/sqrt(r3_inv)

```

---

```

29         r3_inv = r_inv * r_inv
30         r_inv = r_inv * ep_j(j)%mass
31         r3_inv = r3_inv * r_inv
32         ai%x = ai%x - r3_inv * rij%x
33         ai%y = ai%y - r3_inv * rij%y
34         ai%z = ai%z - r3_inv * rij%z
35         poti = poti - r_inv
36     end do
37     f(i)%pot = f(i)%pot + poti
38     f(i)%acc = f(i)%acc + ai
39 end do
40
41 end subroutine calc_gravity_psp
42
43 end module user_defined_types

```

---

本サンプルコードでは、サブルーチン `calc_gravity_psp` として実装されている。サブルーチンの仮引数は、`EssentialParticleI` の配列、`EssentialParticleI` の個数、超粒子の配列、超粒子の個数、`Force` 型の配列である。本サンプルコードでは、`FullParticle` 型がすべてのユーザ定義型を兼ねているため、引数の `Force` 型は `full_particle` 型となっていることに注意して頂きたい。ここで指定する超粒子型はこの相互作用計算を実施するのに使用するツリーオブジェクトの種別と適合していなければならない。

### 4.1.3 プログラム本体

本節では、FDPS Fortran インターフェースを用いて  $N$  体計算を行うにあたり、“メインルーチン” `f_main()` に書かれるべき関数に関して解説する。ここで、メインルーチンとはっきり書かないのは、次の理由による: FDPS Fortran インターフェースを使用する場合、ユーザコードは必ずサブルーチン `f_main()` の下に記述されなければならない、ユーザコードは正しい意味でのメインルーチン (メインプログラム) を持たない。しかし、実質的にはサブルーチン `f_main()` がメインルーチンの役割を果たす。そのため、敢えて“メインルーチン”という言葉を使った。メインルーチンという言葉は、それがユーザコードの入り口であることを示すのに適しているので、以後、`f_main()` をメインルーチンと呼ぶことにする。本サンプルコードのメインルーチンは `f_main.F90` に記述されている。

#### 4.1.3.1 fdps\_controller 型オブジェクトの生成

FDPS Fortran インターフェースにおいて、FDPS の API はすべて Fortran 2003 のクラス `FDPS_controller` のメンバ関数として提供される。このクラスは、インターフェースプログラムの 1 つである `FDPS_module.F90` の中の、モジュール `fdps_module` 内で定義されている。したがって、ユーザは FDPS の API を使用するために、`FDPS_controller` 型オブジェクトを生成しなければならない。本サンプルコードでは、`FDPS_controller` 型オブジェクト `fdps_ctrl` をメインルーチンで生成している:

---

Listing 4: `fdps_controller` 型オブジェクトの生成

---

---

```

1 subroutine f_main()
2   use fdps_module
3   implicit none
4   !* Local variables
5   type(fdps_controller) :: fdps_ctrl
6
7   ! Do something
8
9 end subroutine f_main

```

---

ここに示したコードは実際にサンプルコードから必要な部分だけを取り出したものであることに注意して頂きたい。

上記の理由から、以下の説明において、FDPS の API はこのオブジェクトのメンバ関数として呼び出されていることに注意されたい。

#### 4.1.3.2 開始、終了

まずは、FDPS の初期化/開始を行う必要がある。次のように、メインルーチンに記述する。

Listing 5: FDPS の開始

---

```

1 call fdps_ctrl%PS_Initialize()

```

---

FDPS は、開始したら明示的に終了させる必要がある。今回は、プログラムの終了と同時に FDPS も終了させるため、メインルーチンの最後に次のように記述する。

Listing 6: FDPS の終了

---

```

1 call fdps_ctrl%PS_Finalize()

```

---

#### 4.1.3.3 オブジェクトの生成・初期化

FDPS の初期化に成功した場合、ユーザーはコード中で用いるオブジェクトを作成する必要がある。本節では、オブジェクトの生成/初期化の仕方について解説する。

##### 4.1.3.3.1 オブジェクトの生成

今回の計算では、粒子群オブジェクト、領域情報オブジェクトに加え、重力計算用のツリーオブジェクトを 1 個生成する必要がある。Fortran インターフェースでは、これらオブジェクトはすべて整数変数に格納された識別番号を使って操作する。したがって、まず識別番号を格納する整数変数を用意したあとに、オブジェクトを生成する API を呼び出す必要がある。以下にそのコードを記す。これらはサンプルコード `f_main.F90` のメインルーチン内に記述されている。

Listing 7: オブジェクトの生成

---

```

1 subroutine f_main()
2   use fdps_module

```

---



---

```

3  use user_defined_types
4  implicit none
5  !* Local variables
6  integer :: psys_num, dinfo_num, tree_num
7
8  !* Create FDPS objects
9  call fdps_ctrl%create_dinfo(dinfo_num)
10 call fdps_ctrl%create_psys(psys_num, 'full_particle')
11 call fdps_ctrl%create_tree(tree_num, &
12                               "Long,full_particle,full_particle,
13                               full_particle,Monopole")
14 end subroutine f_main

```

---

ここでも、実際のサンプルコードから該当部分だけを抜き出していることに注意して頂きたい。

上に示すように、粒子群オブジェクトを生成する際には FullParticle 型に対応する派生データ型名を文字列として API の引数に渡す必要がある。同様に、ツリーオブジェクト生成の際には、ツリーの種別を示す文字列を API の引数に渡す必要がある。両 API において、派生データ型名は小文字で入力されなければならない。

---

#### 4.1.3.3.2 領域情報オブジェクトの初期化

ユーザーはオブジェクトを作成したら、そのオブジェクトの初期化を行う必要がある。本サンプルコードでは周期境界等是用いていないため、領域情報オブジェクトの初期化は API `init_dinfo` を実行するだけでよい:

Listing 8: 領域オブジェクトの初期化

---

```

1 call fdps_ctrl%init_dinfo(dinfo_num,coef_ema)

```

---

ここで、API `init_dinfo` の第 2 引数は領域分割に使用される指数移動平均の平滑化係数を表す。この係数の意味については仕様書に詳しい解説があるので、そちらを参照されたい。

#### 4.1.3.3.3 粒子群オブジェクトの初期化

次に、粒子群オブジェクトの初期化を行う必要がある。粒子群オブジェクトの初期化は、API `init_psys` で行う:

Listing 9: 粒子群オブジェクトの初期化

---

```

1 call fdps_ctrl%init_psys(psys_num)

```

---

#### 4.1.3.3.4 ツリーオブジェクトの初期化

次に、ツリーオブジェクトの初期化を行う必要がある。ツリーオブジェクトの初期化は API `init_tree` で行う。この API には、引数として大雑把な粒子数を渡す必要がある。今回は、全体の粒子数 (`ntot`) をセットしておく事にする:

Listing 10: ツリーオブジェクトの初期化

---

```

1 call fdps_ctrl%init_tree(tree_num,ntot,theta, &
2                           n_leaf_limit,n_group_limit)

```

---

この API には 3 つの省略可能引数が存在し、サンプルコードではこれらを省略せずに指定している:

- `theta` — ツリー法で力の計算をする場合の見込み角についての基準
- `n_leaf_limit` — ツリーを切るのをやめる粒子数の上限
- `n_group_limit` — 相互作用リストを共有する粒子数の上限

#### 4.1.3.4 粒子データの初期化

初期条件の設定を行うためには、粒子群オブジェクトに粒子データを入力する必要がある。(既に API `init_psys` で初期化済みの) 粒子群オブジェクトに、`FullParticle` 型粒子のデータを格納するには、粒子群オブジェクトの API `set_nptcl_loc` と `get_psys_fptr` を用いて、次のように行う:

Listing 11: 粒子データの初期化

---

```

1 subroutine foo(fdps_ctrl,psys_num)
2   use fdps_vector
3   use fdps_module
4   use user_defined_types
5   implicit none
6   type(fdps_controller), intent(IN) :: fdps_ctrl
7   integer, intent(IN) :: psys_num
8   !* Local variables
9   integer :: i,nptcl_loc
10  type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
11
12  !* Set # of local particles
13  call fdps_ctrl%set_nptcl_loc(psys_num,nptcl_loc)
14
15  !* Get the pointer to full particle data
16  call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
17
18  !* Initialize particle data
19  do i=1,nptcl_loc
20    ptcl(i)%pos = ! Do something
21  end do
22
23  !* Release the pointer
24  nullify(ptcl)
25
26 end subroutine foo

```

---

まず、粒子群オブジェクトに粒子データを保存するのに必要なメモリを確保しなければならない。これを行うには API `set_nptcl_loc` を実行すればよい。この API は指定された粒子群オブジェクトのローカル粒子数 (自プロセスが管理する粒子数) の値を設定し、かつ、その粒子数を格納するのに必要なメモリを確保する。粒子データを初期化するためには、確保さ



れたメモリのアドレスを取得しなければならない。これには API `get_psys_fptr` を使用する。アドレスは Fortran ポインタで受け取る必要がある。そのため、上記の例では、ポインタを以下のように用意している:

```
type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
```

API `get_psys_fptr` によってポインタを設定した後は、ポインタを粒子配列のように使用することが可能である。上の例では、粒子データの設定が完了した後、ポインタを組込関数 `nullify` によって解放している。

#### 4.1.3.5 ループ

本節では、時間積分ループの中で行わなければならないことについて、解説する。

##### 4.1.3.5.1 領域分割の実行

まずは、粒子分布に基いて、領域分割を実行する。本サンプルコードでは、これを領域情報オブジェクトの API `decompose_domain_all` を用いて行っている:

Listing 12: 領域分割の実行

```
1 if (mod(num_loop,4) == 0) then
2   call fdps_ctrl%decompose_domain_all(dinfo_num,psys_num)
3 end if
```

ここで、計算時間の節約のため、領域分割は 4 ループ毎に 1 回だけ行うようにしている。

##### 4.1.3.5.2 粒子交換の実行

次に、領域情報に基いて、プロセス間の粒子の情報を交換する。これには、粒子群オブジェクトの API `exchange_particle` を用いる:

Listing 13: 粒子交換の実行

```
1 call fdps_ctrl%exchange_particle(psys_num,dinfo_num)
```

##### 4.1.3.5.3 相互作用計算の実行

領域分割・粒子交換が終了したら、相互作用の計算を行う。これには、ツリーオブジェクトの API `calc_force_all_and_write_back` を用いる:

Listing 14: 相互作用計算の実行

```
1 subroutine f_main()
2   use, intrinsic :: iso_c_binding
3   use user_defined_types
4   implicit none
```

```

5      !* Local variables
6      type(c_funptr) :: pfunc_ep_ep, pfunc_ep_sp
7
8      ! Do something
9
10     pfunc_ep_ep = c_funloc(calc_gravity_pp)
11     pfunc_ep_sp = c_funloc(calc_gravity_psp)
12     call fdps_ctrl%calc_force_all_and_write_back(tree_num,      &
13                                                    pfunc_ep_ep, &
14                                                    pfunc_ep_sp, &
15                                                    psys_num,   &
16                                                    dinfo_num)
17
18     ! Do something
19
20 end subroutine f_main

```

ここで、API の第 2,3 引数には関数 `calcForceEpEp`, `calcForceEpSp` の (C 言語アドレス<sup>注 4)</sup>としての) 関数ポインタを指定する。関数の C 言語アドレスは、Fortran 2003 で導入された組込関数 `c_funloc` を使って取得する (この組込み関数はモジュール `iso_c_binding` で提供されるため、`use` 文を使い、このモジュールを利用可能にしている)。C 言語アドレスを格納するためには、同じく Fortran 2003 で導入された派生データ型 `c_funptr` の変数が必要である。そのため、本サンプルコードでは、`c_funptr` 型変数として、`pfunc_ep_ep` と `pfunc_ep_sp` を用意している。ここに、`calc_gravity_pp` と `calc_gravity_psp` の C 言語アドレスを格納した上で、API に渡している。

#### 4.1.3.5.4 時間積分

本サンプルコードでは、時間積分を Leapfrog 時間積分法によって行う。時間積分は形式的に、 $K(\frac{\Delta t}{2})D(\Delta t)K(\frac{\Delta t}{2})$  と表される。ここで、 $\Delta t$  は時間刻み、 $K(\cdot)$  は速度を指定された時間だけ時間推進するオペレータ、 $D(\cdot)$  は位置を指定された時間だけ時間推進するオペレータである。本サンプルコードにおいて、これらのオペレータは、関数 `kick` と関数 `drift` として実装している。

時間積分ループの最初で、最初の  $D(\Delta t)K(\frac{\Delta t}{2})$  の計算を行い、粒子の座標と速度の情報を更新している:

Listing 15:  $D(\Delta t)K(\frac{\Delta t}{2})$  オペレータの計算

```

1  !* Leapfrog: Kick-Drift
2  call kick(fdps_ctrl,psys_num,0.5d0*dt)
3  time_sys = time_sys + dt
4  call drift(fdps_ctrl,psys_num,dt)

```

時間積分ループの次の部分では、力の計算を行い、その後、最後の  $K(\frac{\Delta t}{2})$  の計算を行っている:

Listing 16:  $K(\frac{\Delta t}{2})$  オペレータの計算

<sup>注 4)</sup> C 言語方式で記述されたアドレス情報のこと。

---

```

1  !* Leapfrog: Kick
2  call kick(fdps_ctrl,psys_num,0.5d0*dt)

```

---

#### 4.1.3.6 粒子データの更新

上記で説明したkickやdrift等のサブルーチンで、粒子データを更新するためには、粒子群オブジェクトに格納されている粒子データにアクセスする必要がある。これは、第4.1.3.4節で説明した方法とほぼ同様に行う:

Listing 17: 粒子データの更新

---

```

1  subroutine foo(fdps_ctrl,psys_num)
2      use fdps_vector
3      use fdps_module
4      use user_defined_types
5      implicit none
6      type(fdps_controller), intent(IN) :: fdps_ctrl
7      integer, intent(IN) :: psys_num
8      !* Local variables
9      integer :: i,nptcl_loc
10     type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
11
12     !* Get # of local particles
13     nptcl_loc = fdps_ctrl%get_nptcl_loc(psys_num)
14
15     !* Get the pointer to full particle data
16     call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
17
18     !* Initialize or update particle data
19     do i=1,nptcl_loc
20         ptcl(i)%pos = ! Do something
21     end do
22
23     !* Release the pointer
24     nullify(ptcl)
25
26 end subroutine foo

```

---

API get\_psys\_fptr を使い、粒子群オブジェクトに格納された粒子データのアドレスをポインタとして受け取る。受け取ったポインタは要素数 nptcl\_loc の粒子配列として振る舞うので、一般的な配列同様に値を更新すればよい。

#### 4.1.4 ログファイル

計算が正しく開始すると、標準出力に、時間・エネルギー誤差の2つが出力される。以下はその出力の最も最初のステップでの例である。

Listing 18: 標準出力の例

---

```

1  time:      0.0000000000E+000, energy error:    -0.0000000000E+000

```

---

## 4.2 固定長 SPH シミュレーションコード

本節では、前節(第3節)で使用した、固定 smoothing length での標準 SPH 法のサンプルコードの詳細について解説する。

### 4.2.1 ソースファイルの場所と構成

ソースファイルは\$(FDPS)/sample/fortran/sph 以下にある。サンプルコードは、次節で説明するユーザ定義型が記述されたソースコード user\_defined.F90 と、SPH シミュレーションのメインループ等が記述されたソースコード f\_main.F90 から構成される。この他に、GCC と Intel コンパイラ用の Makefile である Makefile と Makefile.intel がある。

### 4.2.2 ユーザー定義型・ユーザー定義関数

本節では、FDPS の機能を用いて SPH の計算を行う際に、ユーザーが記述しなければならない派生データ型とサブルーチンについて記述する。

#### 4.2.2.1 FullParticle 型

ユーザーはユーザ定義型の 1 つ FullParticle 型を記述しなければならない。FullParticle 型には、シミュレーションを行うにあたって、SPH 粒子が持っているべき全ての物理量が含まれている。Listing 19 に本サンプルコード中で用いる FullParticle 型の実装例を示す (user\_defined.F90 を参照)。

Listing 19: FullParticle 型

```

1  !**** Full particle type
2  type, public, bind(c) :: full_particle !$fdps FP
3      !$fdps copyFromForce dens_force (dens,dens)
4      !$fdps copyFromForce hydro_force (acc,acc) (eng_dot,eng_dot) (dt,dt)
5      real(kind=c_double) :: mass !$fdps charge
6      type(fdps_f64vec) :: pos !$fdps position
7      type(fdps_f64vec) :: vel
8      type(fdps_f64vec) :: acc
9      real(kind=c_double) :: dens
10     real(kind=c_double) :: eng
11     real(kind=c_double) :: pres
12     real(kind=c_double) :: smth !$fdps rsearch
13     real(kind=c_double) :: snds
14     real(kind=c_double) :: eng_dot
15     real(kind=c_double) :: dt
16     integer(kind=c_long_long) :: id
17     type(fdps_f64vec) :: vel_half
18     real(kind=c_double) :: eng_half
19 end type full_particle

```

SPH サンプルコードでは  $N$  体サンプルコードと異なり、FullParticle 型が他のユーザ定義型を兼ねることはない。したがって、この派生データ型が FullParticle 型であることを示すため、次の指示文を記述している:

```
type, public, bind(c) :: full_particle !fdps FP
```

SPH シミュレーションにおける相互作用は短距離力である。そのため、必須物理量として探索半径が加わる。粒子位置等の指定も含め、どのメンバ変数がどの必須物理量に対応しているかの指定を次の指示文で行っている:

```
real(kind=c_double) :: mass !fdps charge
type(fdps_f64vec) :: pos !fdps position
real(kind=c_double) :: smth !fdps rsearch
```

$N$  体シミュレーションコードの節で述べたように、メンバ変数が粒子速度であることを指定するキーワード `velocity` は予約語でしかないため、本サンプルコードでは指定していない。

FullParticle 型は Force 型との間でデータコピーを行う。ユーザは指示文を使い、FDPS にデータコピーの仕方を教えなければならない。後述するように本 SPH サンプルコードには 2 つの Force 型が存在する。したがって、ユーザはそれぞれの Force 型に対して、指示文を記述する必要がある。本サンプルコードでは、以下のように記述している:

```
!fdps copyFromForce dens_force (dens,dens)
!fdps copyFromForce hydro_force (acc,acc) (eng_dot,eng_dot) (dt,dt)
```

#### 4.2.2.2 EssentialParticleI 型

ユーザは EssentialParticleI 型を記述しなければならない。EssentialParticleI 型には、Force の計算を行う際、 $i$  粒子が持っているべき全ての物理量をメンバ変数として持っている必要がある。また、本サンプルコード中では、EssentialParticleJ 型も兼ねているため、 $j$  粒子が持っているべき全ての物理量もメンバ変数として持っている必要がある。Listing 20 に、本サンプルコードの EssentialParticleI 型の実装例を示す (`user_defined.F90` 参照):

Listing 20: EssentialParticleI 型

```
1  !**** Essential particle type
2  type, public, bind(c) :: essential_particle !fdps EPI,EPJ
3      !fdps copyFromFP full_particle (id,id) (pos,pos) (vel,vel) (mass,
4          mass) (smth,smth) (dens,dens) (pres,pres) (snds,snds)
5      integer(kind=c_long_long) :: id
6      type(fdps_f64vec) :: pos !fdps position
7      type(fdps_f64vec) :: vel
8      real(kind=c_double) :: mass !fdps charge
9      real(kind=c_double) :: smth !fdps rsearch
10     real(kind=c_double) :: dens
11     real(kind=c_double) :: pres
12     real(kind=c_double) :: snds
```

```
12     end type essential_particle
```

まず、ユーザは指示文を用いて、この派生データ型が EssentialParticleI 型かつ EssentialParticleJ 型であることを FDPS に教えなければならない。本サンプルコードでは、以下のよう記述している:

```
type, public, bind(c) :: essential_particle !$fdps EPI,EPJ
```

次に、ユーザはこの派生データ型のどのメンバ変数がどの必須物理量に対応するのかを指示文によって指定しなければならない。今回は SPH シミュレーションを行うので探索半径の指定も必要である。本サンプルコードでは、以下のよう記述している:

```
type(fdps_f64vec) :: pos !$fdps position
real(kind=c_double) :: mass !$fdps charge
real(kind=c_double) :: smth !$fdps rsearch
```

EssentialParticleI 型と EssentialParticleJ 型は FullParticle 型からデータを受け取る。ユーザは FullParticle 型のどのメンバ変数を EssentialParticle?型 (?=I,J) のどのメンバ変数にコピーするのかを、指示文を用いて指定する必要がある。本サンプルコードでは、以下のよう記述している:

```
!$fdps copyFromFP full_particle (id,id) (pos,pos) (vel,vel) (mass,mass)
(smth,smth) (dens,dens) (pres,pres) (snds,snds)
```

#### 4.2.2.3 Force 型

ユーザーは Force 型を記述しなければならない。Force 型には、Force の計算を行った際にその結果として得られる全ての物理量をメンバ変数として持っている必要がある。また、本サンプルコード中では、Force の計算は密度の計算と流体相互作用計算の 2 つが存在するため、Force 型は 2 つ書く必要がある。Listing 21 に、本サンプルコード中で用いる Force 型の実装例を示す。

Listing 21: Force 型

```
1  !**** Force types
2  type, public, bind(c) :: dens_force !$fdps Force
3      !$fdps clear smth=keep
4      real(kind=c_double) :: dens
5      real(kind=c_double) :: smth
6  end type dens_force
7
8  type, public, bind(c) :: hydro_force !$fdps Force
9      !$fdps clear
10     type(fdps_f64vec) :: acc
11     real(kind=c_double) :: eng_dot
12     real(kind=c_double) :: dt
13 end type hydro_force
```

まず、ユーザはこれらの派生データ型が Force 型であることを指示文によって指定する必要がある。この実装例では、それぞれの派生データ型に対して、以下のように記述している:

```
type, public, bind(c) :: dens_force !$fdps Force
type, public, bind(c) :: hydro_force !$fdps Force
```

これらの派生データ型は Force 型であるから、ユーザは必ず、相互作用計算における積算対象のメンバ変数の初期化方法を指定する必要がある。本サンプルコードでは、積算対象である密度、(圧力勾配による) 加速度、エネルギー密度の変化率、時間刻みのみを 0 クリアする指示を出している:

```
!$fdps clear smth=keep
!$fdps clear
```

この例において、Force 型 `dens_force` には、smoothing length を表すメンバ変数 `smth` が用意されている。本来、固定長 SPH では、Force 型に smoothing length に対応するメンバを持たせる必要はない。しかし、ここでは、ユーザが将来的に可変長 SPH に移行することを想定して用意してある。可変長 SPH の formulation の 1 つである Springel [2005,MNRAS,364,1105] の方法では、密度計算と同時に smoothing length を計算する必要がある。そのような formulation を実装する場合には、この例のように、Force 型に smoothing length を持たせる必要が生じる。本サンプルコードでは固定長 SPH を使うため、メンバ関数 `clear` で `smth` を 0 クリアされないようにしている (0 クリアされては 2 回目以降の密度計算が破綻するため)。

#### 4.2.2.4 関数 `calcForceEpEp`

ユーザは粒子間相互作用の仕方を記述した関数 `calcForceEpEp` を記述しなければならない。関数 `calcForceEpEp` には、各 Force 型に対応する粒子-粒子相互作用計算の具体的な内容を書く必要があり、Fortran のサブルーチンとして実装しなければならない。Listing 22 に、本サンプルコードの関数 `calcForceEpEp` を示す (`user_defined.F90` を参照)。

Listing 22: 関数 `calcForceEpEp`

```
1  !**** Interaction function
2  subroutine calc_density(ep_i,n_ip,ep_j,n_jp,f) bind(c)
3      integer(kind=c_int), intent(in), value :: n_ip,n_jp
4      type(essential_particle), dimension(n_ip), intent(in) :: ep_i
5      type(essential_particle), dimension(n_jp), intent(in) :: ep_j
6      type(dens_force), dimension(n_ip), intent(inout) :: f
7      !* Local variables
8      integer(kind=c_int) :: i,j
9      type(fdps_f64vec) :: dr
10
11      do i=1,n_ip
12          f(i)%dens = 0.0d0
13          do j=1,n_jp
14              dr%x = ep_j(j)%pos%x - ep_i(i)%pos%x
15              dr%y = ep_j(j)%pos%y - ep_i(i)%pos%y
16              dr%z = ep_j(j)%pos%z - ep_i(i)%pos%z
```



```

17         f(i)%dens = f(i)%dens &
18             + ep_j(j)%mass * W(dr,ep_i(i)%smth)
19     end do
20 end do
21
22 end subroutine calc_density
23
24 !**** Interaction function
25 subroutine calc_hydro_force(ep_i,n_ip,ep_j,n_jp,f) bind(c)
26     integer(kind=c_int), intent(in), value :: n_ip,n_jp
27     type(essential_particle), dimension(n_ip), intent(in) :: ep_i
28     type(essential_particle), dimension(n_jp), intent(in) :: ep_j
29     type(hydro_force), dimension(n_ip), intent(inout) :: f
30     !* Local parameters
31     real(kind=c_double), parameter :: C_CFL=0.3d0
32     !* Local variables
33     integer(kind=c_int) :: i,j
34     real(kind=c_double) :: mass_i,mass_j,smth_i,smth_j, &
35         dens_i,dens_j,pres_i,pres_j, &
36         sn ds_i,sn ds_j
37     real(kind=c_double) :: povrho2_i,povrho2_j, &
38         v_sig_max,dr_dv,w_ij,v_sig,AV
39     type(fdps_f64vec) :: pos_i,pos_j,vel_i,vel_j, &
40         dr,dv,gradW_ij
41
42     do i=1,n_ip
43         !* Zero-clear
44         v_sig_max = 0.0d0
45         !* Extract i-particle info.
46         pos_i = ep_i(i)%pos
47         vel_i = ep_i(i)%vel
48         mass_i = ep_i(i)%mass
49         smth_i = ep_i(i)%smth
50         dens_i = ep_i(i)%dens
51         pres_i = ep_i(i)%pres
52         sn ds_i = ep_i(i)%sn ds
53         povrho2_i = pres_i/(dens_i*dens_i)
54         do j=1,n_jp
55             !* Extract j-particle info.
56             pos_j%x = ep_j(j)%pos%x
57             pos_j%y = ep_j(j)%pos%y
58             pos_j%z = ep_j(j)%pos%z
59             vel_j%x = ep_j(j)%vel%x
60             vel_j%y = ep_j(j)%vel%y
61             vel_j%z = ep_j(j)%vel%z
62             mass_j = ep_j(j)%mass
63             smth_j = ep_j(j)%smth
64             dens_j = ep_j(j)%dens
65             pres_j = ep_j(j)%pres
66             sn ds_j = ep_j(j)%sn ds
67             povrho2_j = pres_j/(dens_j*dens_j)
68             !* Compute dr & dv
69             dr%x = pos_i%x - pos_j%x
70             dr%y = pos_i%y - pos_j%y
71             dr%z = pos_i%z - pos_j%z

```



```

72      dv%x = vel_i%x - vel_j%x
73      dv%y = vel_i%y - vel_j%y
74      dv%z = vel_i%z - vel_j%z
75      !* Compute the signal velocity
76      dr_dv = dr%x * dv%x + dr%y * dv%y + dr%z * dv%z
77      if (dr_dv < 0.0d0) then
78          w_ij = dr_dv / sqrt(dr%x * dr%x + dr%y * dr%y + dr%z * dr%z
79                          )
79      else
80          w_ij = 0.0d0
81      end if
82      v_sig = snds_i + snds_j - 3.0d0 * w_ij
83      v_sig_max = max(v_sig_max, v_sig)
84      !* Compute the artificial viscosity
85      AV = - 0.5d0*v_sig*w_ij / (0.5d0*(dens_i+dens_j))
86      !* Compute the average of the gradients of kernel
87      gradW_ij = 0.5d0 * (gradW(dr,smth_i) + gradW(dr,smth_j))
88      !* Compute the acceleration and the heating rate
89      f(i)%acc%x = f(i)%acc%x - mass_j*(povrho2_i+povrho2_j+AV)*
90                      gradW_ij%x
91      f(i)%acc%y = f(i)%acc%y - mass_j*(povrho2_i+povrho2_j+AV)*
92                      gradW_ij%y
93      f(i)%acc%z = f(i)%acc%z - mass_j*(povrho2_i+povrho2_j+AV)*
94                      gradW_ij%z
95      f(i)%eng_dot = f(i)%eng_dot &
96                      + mass_j * (povrho2_i + 0.5d0*AV) &
97                      *(dv%x * gradW_ij%x &
98                      +dv%y * gradW_ij%y &
99                      +dv%z * gradW_ij%z)
100      end do
101      f(i)%dt = C_CFL*2.0d0*smth_i/(v_sig_max*kernel_support_radius)
102  end do
103  ! [IMPORTANT NOTE]
104  !   In the innermost loop, we use the components of vectors
105  !   directly for vector operations because of the following
106  !   reason. Except for intel compilers with '-ipo' option,
107  !   most of Fortran compilers use function calls to perform
108  !   vector operations like rij = x - ep_j(j)%pos.

```

本 SPH シミュレーションコードでは、2 種類の相互作用があるため、関数 calcForceEpEp は 2 つ記述する必要がある。いずれの場合にも、関数の仮引数は、EssentialParticleI の配列、EssentialParticleI の個数、EssentialParticleJ の配列、EssentialParticleJ の個数、Force 型の配列である。

### 4.2.3 プログラム本体

本節では、FDPS を用いて SPH 計算を行う際に、メインルーチンに書かれるべき関数に関して解説する (本文書におけるメインルーチンの定義については、第 4.1.3 節を参照のこと)。

#### 4.2.3.1 fdps\_controller 型オブジェクトの生成

ユーザはFDPSのAPIを使用するために、FDPS\_controller 型オブジェクトを生成しなければならない。本サンプルコードでは、FDPS\_controller 型オブジェクト fdps\_ctrl をメインルーチンで生成している:

Listing 23: fdps\_controller 型オブジェクトの生成

---

```

1 subroutine f_main()
2   use fdps_module
3   implicit none
4   !* Local variables
5   type(fdps_controller) :: fdps_ctrl
6
7   ! Do something
8
9 end subroutine f_main

```

---

ここに示したコードは実際にサンプルコードから必要な部分だけを取り出したものであることに注意して頂きたい。

上記の理由から、以下の説明において、FDPSのAPIはこのオブジェクトのメンバ関数として呼び出されていることに注意されたい。

#### 4.2.3.2 開始、終了

まずは、FDPSの初期化/開始を行う必要がある。次のように、メインルーチンに記述する。

Listing 24: FDPS の開始

---

```

1 call fdps_ctrl%PS_Initialize()

```

---

FDPSは、開始したら明示的に終了させる必要がある。今回は、プログラムの終了と同時にFDPSも終了させるため、メイン関数の最後に次のように記述する。

Listing 25: FDPS の終了

---

```

1 call fdps_ctrl%PS_Finalize()

```

---

#### 4.2.3.3 初期化

FDPSの初期化に成功した場合、ユーザーはコード中で用いるオブジェクトを作成する必要がある。本節では、オブジェクトの生成/初期化の仕方について、解説する。

##### 4.2.3.3.1 オブジェクトの生成

SPHでは、粒子群オブジェクト、領域情報オブジェクトに加え、密度計算用にGather型の短距離力用ツリーを1本、相互作用計算用にSymmetry型の短距離力用ツリーを1本生成する必要がある。以下にそのコードを記す。

Listing 26: オブジェクトの生成

---

```

1  subroutine f_main()
2      use fdps_vector
3      use fdps_module
4      use user_defined_types
5      implicit none
6      !* Local variables
7      integer :: psys_num, dinfo_num
8      integer :: dens_tree_num, hydro_tree_num
9
10     !* Create FDPS objects
11     call fdps_ctrl%create_psys(psys_num, 'full_particle')
12     call fdps_ctrl%create_dinfo(dinfo_num)
13     call fdps_ctrl%create_tree(dens_tree_num, &
14                               "Short, dens_force, essential_particle,
15                               essential_particle, Gather")
16     call fdps_ctrl%create_tree(hydro_tree_num, &
17                               "Short, hydro_force, essential_particle,
18                               essential_particle, Symmetry")
19
20 end subroutine f_main

```

---

ここでも、実際のサンプルコードから該当部分だけを抜き出していることに注意して頂きたい。API `create_psys` と `create_tree` には、それぞれ、粒子種別とツリー種別を示す文字列を渡す。これら文字列の中のすべての派生データ型名は小文字で記述されなければならないことに注意して頂きたい。

---

#### 4.2.3.3.2 領域情報オブジェクトの初期化

ユーザーはオブジェクトを作成したら、そのオブジェクトの初期化を行う必要がある。ここでは、まず領域情報オブジェクトの初期化について、解説する。領域情報オブジェクトの初期化が終わった後、領域情報オブジェクトに周期境界の情報と、境界の大きさをセットする必要がある。今回のサンプルコードでは、 $x$ ,  $y$ ,  $z$  方向に周期境界を用いる。

Listing 27: 領域情報オブジェクトの初期化

---

```

1  call fdps_ctrl%init_dinfo(dinfo_num, coef_ema)
2  call fdps_ctrl%set_boundary_condition(dinfo_num, fdps_bc_periodic_xyz)
3  call fdps_ctrl%set_pos_root_domain(dinfo_num, pos_ll, pos_ul)

```

---

#### 4.2.3.3.3 粒子群オブジェクトの初期化

次に、粒子群オブジェクトの初期化を行う必要がある。粒子群オブジェクトの初期化は、次の一文だけでよい。

Listing 28: 粒子群オブジェクトの初期化

---

```

1  call fdps_ctrl%init_psys(psys_num)

```

---

#### 4.2.3.3.4 ツリーオブジェクトの初期化

次に、ツリーオブジェクトの初期化を行う必要がある。ツリーオブジェクトの初期化を行う関数には、引数として大雑把な粒子数を渡す必要がある。今回は、粒子数の3倍程度をセットしておく事にする。

Listing 29: 相互作用ツリークラスの初期化

```
1 call fdps_ctrl%init_tree(dens_tree_num,3*ntot,theta, &
2                          n_leaf_limit,n_group_limit)
3 call fdps_ctrl%init_tree(hydro_tree_num,3*ntot,theta, &
4                          n_leaf_limit,n_group_limit)
```

#### 4.2.3.4 ループ

本節では、時間積分ループの中で行わなければならないことについて、解説する。

##### 4.2.3.4.1 領域分割の実行

まずは、粒子分布に基いて、領域分割を実行する。これには、領域情報オブジェクトの API `decompose_domain_all` を用いる。

Listing 30: 領域分割の実行

```
1 call fdps_ctrl%decompose_domain_all(dinfo_num,psys_num)
```

##### 4.2.3.4.2 粒子交換の実行

次に、領域情報に基いて、プロセス間の粒子の情報を交換する。これには、粒子群オブジェクトの API `exchange_particle` を用いる。

Listing 31: 粒子交換の実行

```
1 call fdps_ctrl%exchange_particle(psys_num,dinfo_num)
```

##### 4.2.3.4.3 相互作用計算の実行

領域分割・粒子交換が終了したら、相互作用の計算を行う。これには、ツリーオブジェクトの API `calc_force_all_and_write_back` を用いる。

Listing 32: 相互作用計算の実行

```
1 subroutine f_main()
2   use, intrinsic :: iso_c_binding
3   use user_defined_types
4   implicit none
5   !* Local variables
6   type(c_funptr) :: pfunc_ep_ep
```

```

7
8     ! Do something
9
10    pfunc_ep_ep = c_funloc(calc_density)
11    call fdps_ctrl%calc_force_all_and_write_back(dens_tree_num, &
12                                                pfunc_ep_ep,      &
13                                                psys_num,        &
14                                                dinfo_num)
15
16    call set_pressure(fdps_ctrl,psys_num)
17    pfunc_ep_ep = c_funloc(calc_hydro_force)
18    call fdps_ctrl%calc_force_all_and_write_back(hydro_tree_num, &
19                                                pfunc_ep_ep,      &
20                                                psys_num,        &
21                                                dinfo_num)
22
23    ! Do something
24
25 end subroutine f_main

```

ここで、API の第 2 引数には関数 `calcForceEpEp` の (C 言語アドレスとしての) 関数ポインタを指定する。

#### 4.2.4 コンパイル

作業ディレクトリで `make` コマンドを打てばよい。Makefile としては、サンプルコードに付属の Makefile をそのまま用いる事にする。

```
$ make
```

#### 4.2.5 実行

MPI を使用しないで実行する場合、コマンドライン上で以下のコマンドを実行すればよい。

```
$ ./sph.out
```

もし、MPI を用いて実行する場合は、以下のコマンドを実行すればよい。

```
$ MPIRUN -np NPROC ./sph.out
```

ここで、MPIRUN には `mpirun` や `mpiexec` などの MPI 実行プログラムが、NPROC にはプロセス数が入る。

#### 4.2.6 ログファイル

計算が終了すると、`result` フォルダ下にログが出力される。

#### 4.2.7 可視化

ここでは、gnuplot を用いた可視化の方法について解説する。gnuplot で対話モードに入るために、コマンドラインから gnuplot を起動する。

```
$ gnuplot
```

対話モードに入ったら、gnuplot を用いて可視化を行う。今回は、50 番目のスナップショットファイルから、横軸を粒子の  $x$  座標、縦軸を密度に取ったグラフを生成する。

```
gnuplot> plot "result/0040.txt" u 3:9
```

## 5 サンプルコード

### 5.1 $N$ 体シミュレーション

$N$  体シミュレーションのサンプルコードを以下に示す。このサンプルは第3, 4節で用いた  $N$  体シミュレーションのサンプルコードと同じものである。これをカット&ペーストしてコンパイルすれば、正常に動作する  $N$  体シミュレーションコードを作ることができる。

Listing 33:  $N$  体シミュレーションのサンプルコード (user\_defined.F90)

```

1  !=====
2  !   MODULE: User defined types
3  !=====
4  module user_defined_types
5      use, intrinsic :: iso_c_binding
6      use fdps_vector
7      use fdps_super_particle
8      implicit none
9
10     !**** Full particle type
11     type, public, bind(c) :: full_particle !$fdps FP,EPI,EPJ,Force
12         !$fdps copyFromForce full_particle (pot,pot) (acc,acc)
13         !$fdps copyFromFP full_particle (id,id) (mass,mass) (eps,eps) (pos,
14             pos)
15         !$fdps clear id=keep, mass=keep, eps=keep, pos=keep, vel=keep
16         integer(kind=c_long_long) :: id
17         real(kind=c_double) mass !$fdps charge
18         real(kind=c_double) :: eps
19         type(fdps_f64vec) :: pos !$fdps position
20         type(fdps_f64vec) :: vel !$fdps velocity
21         real(kind=c_double) :: pot
22         type(fdps_f64vec) :: acc
23     end type full_particle
24
25     contains
26
27     !**** Interaction function (particle-particle)
28     subroutine calc_gravity_pp(ep_i,n_ip,ep_j,n_jp,f) bind(c)
29         integer(c_int), intent(in), value :: n_ip,n_jp
30         type(full_particle), dimension(n_ip), intent(in) :: ep_i
31         type(full_particle), dimension(n_jp), intent(in) :: ep_j
32         type(full_particle), dimension(n_ip), intent(inout) :: f
33         !* Local variables
34         integer(c_int) :: i,j
35         real(c_double) :: eps2,poti,r3_inv,r_inv
36         type(fdps_f64vec) :: xi,ai,rij
37
38         !* Compute force
39         do i=1,n_ip
40             eps2 = ep_i(i)%eps * ep_i(i)%eps
41             xi = ep_i(i)%pos
42             ai = 0.0d0
43             poti = 0.0d0
44             do j=1,n_jp

```

```

44      rij%x = xi%x - ep_j(j)%pos%x
45      rij%y = xi%y - ep_j(j)%pos%y
46      rij%z = xi%z - ep_j(j)%pos%z
47      r3_inv = rij%x*rij%x &
48              + rij%y*rij%y &
49              + rij%z*rij%z &
50              + eps2
51      r_inv = 1.0d0/sqrt(r3_inv)
52      r3_inv = r_inv * r_inv
53      r_inv = r_inv * ep_j(j)%mass
54      r3_inv = r3_inv * r_inv
55      ai%x = ai%x - r3_inv * rij%x
56      ai%y = ai%y - r3_inv * rij%y
57      ai%z = ai%z - r3_inv * rij%z
58      poti = poti - r_inv
59      ! [IMPORTANT NOTE]
60      !   In the innermost loop, we use the components of vectors
61      !   directly for vector operations because of the following
62      !   reason. Except for intel compilers with '-ipo' option,
63      !   most of Fortran compilers use function calls to perform
64      !   vector operations like rij = x - ep_j(j)%pos.
65      !   This significantly slows down the speed of the code.
66      !   By using the components of vector directly, we can avoid
67      !   these function calls.
68      end do
69      f(i)%pot = f(i)%pot + poti
70      f(i)%acc = f(i)%acc + ai
71  end do
72
73  end subroutine calc_gravity_pp
74
75  !**** Interaction function (particle-super particle)
76  subroutine calc_gravity_psp(ep_i,n_ip,ep_j,n_jp,f) bind(c)
77      integer(c_int), intent(in), value :: n_ip,n_jp
78      type(full_particle), dimension(n_ip), intent(in) :: ep_i
79      type(fdps_spj_monopole), dimension(n_jp), intent(in) :: ep_j
80      type(full_particle), dimension(n_ip), intent(inout) :: f
81      !* Local variables
82      integer(c_int) :: i,j
83      real(c_double) :: eps2,poti,r3_inv,r_inv
84      type(fdps_f64vec) :: xi,ai,rij
85
86      do i=1,n_ip
87          eps2 = ep_i(i)%eps * ep_i(i)%eps
88          xi = ep_i(i)%pos
89          ai = 0.0d0
90          poti = 0.0d0
91          do j=1,n_jp
92              rij%x = xi%x - ep_j(j)%pos%x
93              rij%y = xi%y - ep_j(j)%pos%y
94              rij%z = xi%z - ep_j(j)%pos%z
95              r3_inv = rij%x*rij%x &
96                      + rij%y*rij%y &
97                      + rij%z*rij%z &
98                      + eps2

```



```

99         r_inv = 1.0d0/sqrt(r3_inv)
100        r3_inv = r_inv * r_inv
101        r_inv = r_inv * ep_j(j)%mass
102        r3_inv = r3_inv * r_inv
103        ai%x = ai%x - r3_inv * rij%x
104        ai%y = ai%y - r3_inv * rij%y
105        ai%z = ai%z - r3_inv * rij%z
106        poti = poti - r_inv
107    end do
108    f(i)%pot = f(i)%pot + poti
109    f(i)%acc = f(i)%acc + ai
110 end do
111
112 end subroutine calc_gravity_psp
113
114 end module user_defined_types

```

Listing 34:  $N$  体シミュレーションのサンプルコード (f\_main.F90)

```

1  !-----
2  !////////// < M A I N   R O U T I N E > //////////
3  !-----
4  subroutine f_main()
5      use fdps_module
6      use user_defined_types
7      implicit none
8      !* Local parameters
9      integer, parameter :: ntot=2**10
10     !-(force parameters)
11     real, parameter :: theta = 0.5
12     integer, parameter :: n_leaf_limit = 8
13     integer, parameter :: n_group_limit = 64
14     !-(domain decomposition)
15     real, parameter :: coef_ema=0.3
16     !-(timing parameters)
17     double precision, parameter :: time_end = 10.0d0
18     double precision, parameter :: dt = 1.0d0/128.0d0
19     double precision, parameter :: dt_diag = 1.0d0/8.0d0
20     double precision, parameter :: dt_snap = 1.0d0
21     !* Local variables
22     integer :: i,j,k,num_loop,ierr
23     integer :: psys_num,dinfo_num,tree_num
24     integer :: nloc
25     logical :: clear
26     double precision :: ekin0,epot0,etot0
27     double precision :: ekin1,epot1,etot1
28     double precision :: time_diag,time_snap,time_sys
29     double precision :: r,acc
30     type(fdps_controller) :: fdps_ctrl
31     type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
32     type(c_funptr) :: pfunc_ep_ep,pfunc_ep_sp
33     !-(IO)
34     character(len=64) :: fname
35
36     !* Initialize FDPS
37     call fdps_ctrl%PS_Initialize()

```

```

38
39  !* Create domain info object
40  call fdps_ctrl%create_dinfo(dinfo_num)
41  call fdps_ctrl%init_dinfo(dinfo_num,coef_ema)
42
43  !* Create particle system object
44  call fdps_ctrl%create_psys(psys_num,'full_particle')
45  call fdps_ctrl%init_psys(psys_num)
46
47  !* Create tree object
48  call fdps_ctrl%create_tree(tree_num, &
49                                "Long,full_particle,full_particle,
49                                full_particle,Monopole")
50  call fdps_ctrl%init_tree(tree_num,ntot,theta, &
51                                n_leaf_limit,n_group_limit)
52
53  !* Make an initial condition
54  call setup_IC(fdps_ctrl,psys_num,ntot)
55
56  !* Domain decomposition and exchange particle
57  call fdps_ctrl%decompose_domain_all(dinfo_num,psys_num)
58  call fdps_ctrl%exchange_particle(psys_num,dinfo_num)
59
60  !* Compute force at the initial time
61  pfunc_ep_ep = c_funloc(calc_gravity_pp)
62  pfunc_ep_sp = c_funloc(calc_gravity_psp)
63  call fdps_ctrl%calc_force_all_and_write_back(tree_num,      &
64                                                  pfunc_ep_ep, &
65                                                  pfunc_ep_sp, &
66                                                  psys_num,      &
67                                                  dinfo_num)
68
69  !* Compute energies at the initial time
70  clear = .true.
71  call calc_energy(fdps_ctrl,psys_num,etot0,ekin0,epot0,clear)
72
73  !* Time integration
74  time_diag = 0.0d0
75  time_snap = 0.0d0
76  time_sys  = 0.0d0
77  num_loop  = 0
78  do
79      !* Output
80      !if (fdps_ctrl%get_rank() == 0) then
81          ! write(*,50)num_loop,time_sys
82          ! 50 format('(num_loop, time_sys) = ',i5,1x,1es25.16e3)
83      !end if
84      if ( (time_sys >= time_snap) .or. &
85          (((time_sys + dt) - time_snap) > (time_snap - time_sys)) ) then
86          call output(fdps_ctrl,psys_num)
87          time_snap = time_snap + dt_snap
88      end if
89
90      !* Compute energies and output the results
91      clear = .true.
92      call calc_energy(fdps_ctrl,psys_num,etot1,ekin1,epot1,clear)

```

```

92     if (fdps_ctrl%get_rank() == 0) then
93         if ( (time_sys >= time_diag) .or. &
94             (((time_sys + dt) - time_diag) > (time_diag - time_sys)) )
95             then
96                 write(*,100)time_sys,(etot1-etot0)/etot0
97                 100 format("time:␣",1es20.10e3,"␣energy␣error:␣",1es20.10e3)
98                 time_diag = time_diag + dt_diag
99             end if
100         end if
101
102         !* Leapfrog: Kick-Drift
103         call kick(fdps_ctrl,psys_num,0.5d0*dt)
104         time_sys = time_sys + dt
105         call drift(fdps_ctrl,psys_num,dt)
106
107         !* Domain decomposition & exchange particle
108         if (mod(num_loop,4) == 0) then
109             call fdps_ctrl%decompose_domain_all(dinfo_num,psys_num)
110         end if
111         call fdps_ctrl%exchange_particle(psys_num,dinfo_num)
112
113         !* Force calculation
114         pfunc_ep_ep = c_funloc(calc_gravity_pp)
115         pfunc_ep_sp = c_funloc(calc_gravity_psp)
116         call fdps_ctrl%calc_force_all_and_write_back(tree_num,      &
117                                                         pfunc_ep_ep, &
118                                                         pfunc_ep_sp, &
119                                                         psys_num,      &
120                                                         dinfo_num)
121
122         !* Leapfrog: Kick
123         call kick(fdps_ctrl,psys_num,0.5d0*dt)
124
125         !* Update num_loop
126         num_loop = num_loop + 1
127
128         !* Termination
129         if (time_sys >= time_end) then
130             exit
131         end if
132     end do
133
134     !* Finalize FDPS
135     call fdps_ctrl%PS_Finalize()
136
137 end subroutine f_main
138
139 !-----
140 !////////// S U B R O U T I N E //////////
141 !////////// < S E T U P _ I C > //////////
142 !-----
143
144 subroutine setup_IC(fdps_ctrl,psys_num,nptcl_glb)
145     use fdps_vector
146     use fdps_module
147     use user_defined_types
148     implicit none

```

```

146  type(fdps_controller), intent(IN) :: fdps_ctrl
147  integer, intent(IN) :: psys_num,nptcl_glb
148  !* Local parameters
149  double precision, parameter :: m_tot=1.0d0
150  double precision, parameter :: rmax=3.0d0,r2max=rmax*rmax
151  !* Local variables
152  integer :: i,j,k,ierr
153  integer :: nprocs,myrank
154  double precision :: r2,cm_mass
155  type(fdps_f64vec) :: cm_pos,cm_vel,pos
156  type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
157  character(len=64) :: fname
158
159  !* Get # of MPI processes and rank number
160  nprocs = fdps_ctrl%get_num_procs()
161  myrank = fdps_ctrl%get_rank()
162
163  !* Make an initial condition at RANK 0
164  if (myrank == 0) then
165      !* Set # of local particles
166      call fdps_ctrl%set_nptcl_loc(psys_num,nptcl_glb)
167
168      !* Create an uniform sphere of particles
169      !** get the pointer to full particle data
170      call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
171      !** initialize Mersenne twister
172      call fdps_ctrl%MT_init_genrand(0)
173      do i=1,nptcl_glb
174          ptcl(i)%id = i
175          ptcl(i)%mass = m_tot/nptcl_glb
176          do
177              ptcl(i)%pos%x = (2.0d0*fdps_ctrl%MT_genrand_res53()-1.0d0) *
178                  rmax
179              ptcl(i)%pos%y = (2.0d0*fdps_ctrl%MT_genrand_res53()-1.0d0) *
180                  rmax
181              ptcl(i)%pos%z = (2.0d0*fdps_ctrl%MT_genrand_res53()-1.0d0) *
182                  rmax
183              r2 = ptcl(i)%pos*ptcl(i)%pos
184              if ( r2 < r2max ) exit
185          end do
186          ptcl(i)%vel = 0.0d0
187          ptcl(i)%eps = 1.0d0/32.0d0
188      end do
189
190      !* Correction
191      cm_pos = 0.0d0
192      cm_vel = 0.0d0
193      cm_mass = 0.0d0
194      do i=1,nptcl_glb
195          cm_pos = cm_pos + ptcl(i)%mass * ptcl(i)%pos
196          cm_vel = cm_vel + ptcl(i)%mass * ptcl(i)%vel
197          cm_mass = cm_mass + ptcl(i)%mass
198      end do
199      cm_pos = cm_pos/cm_mass
200      cm_vel = cm_vel/cm_mass

```

```

198     do i=1,nptcl_glb
199         ptcl(i)%pos = ptcl(i)%pos - cm_pos
200         ptcl(i)%vel = ptcl(i)%vel - cm_vel
201     end do
202
203     !* Output
204     !fname = 'initial.dat'
205     !open(unit=9,file=trim(fname),action='write',status='replace', &
206     !     form='unformatted',access='stream')
207     !open(unit=9,file=trim(fname),action='write',status='replace')
208     ! do i=1,nptcl_glb
209     !     !write(9)ptcl(i)%pos%x,ptcl(i)%pos%y,ptcl(i)%pos%z
210     !     write(9,'(3es25.16e3)')ptcl(i)%pos%x,ptcl(i)%pos%y,ptcl(i)%pos
211     !         %z
212     ! end do
213     !close(unit=9)
214
215     !* Release the pointer
216     nullify( ptcl )
217
218     else
219         call fdps_ctrl%set_nptcl_loc(psys_num,0)
220     end if
221 end subroutine setup_IC
222
223 !-----
224 !//////////////////// S U B R O U T I N E //////////////////////
225 !//////////////////// < K I C K > //////////////////////
226 !-----
227 subroutine kick(fdps_ctrl,psys_num,dt)
228     use fdps_vector
229     use fdps_module
230     use user_defined_types
231     implicit none
232     type(fdps_controller), intent(IN) :: fdps_ctrl
233     integer, intent(IN) :: psys_num
234     double precision, intent(IN) :: dt
235     !* Local variables
236     integer :: i,nptcl_loc
237     type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
238
239     !* Get # of local particles
240     nptcl_loc = fdps_ctrl%get_nptcl_loc(psys_num)
241
242     !* Get the pointer to full particle data
243     call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
244     do i=1,nptcl_loc
245         ptcl(i)%vel = ptcl(i)%vel + ptcl(i)%acc * dt
246     end do
247     nullify(ptcl)
248
249 end subroutine kick
250
251 !-----

```



```

307
308     !* Compute energies
309     ekin_loc = 0.0d0
310     epot_loc = 0.0d0
311     do i=1,nptcl_loc
312         ekin_loc = ekin_loc + ptcl(i)%mass * ptcl(i)%vel * ptcl(i)%vel
313         epot_loc = epot_loc + ptcl(i)%mass * (ptcl(i)%pot + ptcl(i)%mass/
            ptcl(i)%eps)
314     end do
315     ekin_loc = ekin_loc * 0.5d0
316     epot_loc = epot_loc * 0.5d0
317     etot_loc = ekin_loc + epot_loc
318     call fdps_ctrl%get_sum(ekin_loc,ekin)
319     call fdps_ctrl%get_sum(epot_loc,epot)
320     call fdps_ctrl%get_sum(etot_loc,etot)
321
322     !* Release the pointer
323     nullify(ptcl)
324
325 end subroutine calc_energy
326
327 !-----
328 !//////////////////// S U B R O U T I N E //////////////////////
329 !//////////////////// < O U T P U T > //////////////////////
330 !-----
331 subroutine output(fdps_ctrl,psys_num)
332     use fdps_vector
333     use fdps_module
334     use user_defined_types
335     implicit none
336     type(fdps_controller), intent(IN) :: fdps_ctrl
337     integer, intent(IN) :: psys_num
338     !* Local parameters
339     character(len=16), parameter :: root_dir="result"
340     character(len=16), parameter :: file_prefix_1st="snap"
341     character(len=16), parameter :: file_prefix_2nd="proc"
342     !* Local variables
343     integer :: i,nptcl_loc
344     integer :: myrank
345     character(len=5) :: file_num,proc_num
346     character(len=64) :: cmd,sub_dir,fname
347     type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
348     !* Static variables
349     integer, save :: snap_num=0
350
351     !* Get the rank number
352     myrank = fdps_ctrl%get_rank()
353
354     !* Get # of local particles
355     nptcl_loc = fdps_ctrl%get_nptcl_loc(psys_num)
356
357     !* Get the pointer to full particle data
358     call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
359
360     !* Output

```

```

361 write(file_num,"(i5.5)")snap_num
362 write(proc_num,"(i5.5)")myrank
363 fname = trim(root_dir) // "/" &
364         // trim(file_prefix_1st) // file_num // "-" &
365         // trim(file_prefix_2nd) // proc_num // ".dat"
366 open(unit=9,file=trim(fname),action='write',status='replace')
367 do i=1,nptcl_loc
368     write(9,100)ptcl(i)%id,ptcl(i)%mass, &
369             ptcl(i)%pos%x,ptcl(i)%pos%y,ptcl(i)%pos%z, &
370             ptcl(i)%vel%x,ptcl(i)%vel%y,ptcl(i)%vel%z
371     100 format(i8,1x,7e25.16e3)
372 end do
373 close(unit=9)
374 nullify(ptcl)
375
376 !* Update snap_num
377 snap_num = snap_num + 1
378
379 end subroutine output

```

## 5.2 固定長 SPH シミュレーション

固定長 SPH シミュレーションのサンプルコードを以下に示す。このサンプルは第 3, 4 節で用いた固定長 SPH シミュレーションのサンプルコードと同じものである。これをカット & ペーストしてコンパイルすれば、正常に動作する固定長 SPH シミュレーションコードを作ることができる。

Listing 35: 固定長 SPH シミュレーションのサンプルコード (user\_defined.F90)

```

1  !=====
2  !   MODULE: User defined types
3  !=====
4  module user_defined_types
5      use, intrinsic :: iso_c_binding
6      use fdps_vector
7      implicit none
8
9      !* Private parameters
10     real(kind=c_double), parameter, private :: pi=datan(1.0d0)*4.0d0
11     !* Public parameters
12     real(kind=c_double), parameter, public :: kernel_support_radius=2.5d0
13
14     !*** Force types
15     type, public, bind(c) :: dens_force !$fdps Force
16         !$fdps clear smth=keep
17         real(kind=c_double) :: dens
18         real(kind=c_double) :: smth
19     end type dens_force
20
21     type, public, bind(c) :: hydro_force !$fdps Force
22         !$fdps clear
23         type(fdps_f64vec) :: acc
24         real(kind=c_double) :: eng_dot

```



```

25     real(kind=c_double) :: dt
26 end type hydro_force
27
28 !**** Full particle type
29 type, public, bind(c) :: full_particle !$fdps FP
30     !$fdps copyFromForce dens_force (dens,dens)
31     !$fdps copyFromForce hydro_force (acc,acc) (eng_dot,eng_dot) (dt,dt)
32     real(kind=c_double) :: mass !$fdps charge
33     type(fdps_f64vec) :: pos !$fdps position
34     type(fdps_f64vec) :: vel
35     type(fdps_f64vec) :: acc
36     real(kind=c_double) :: dens
37     real(kind=c_double) :: eng
38     real(kind=c_double) :: pres
39     real(kind=c_double) :: smth !$fdps rsearch
40     real(kind=c_double) :: snds
41     real(kind=c_double) :: eng_dot
42     real(kind=c_double) :: dt
43     integer(kind=c_long_long) :: id
44     type(fdps_f64vec) :: vel_half
45     real(kind=c_double) :: eng_half
46 end type full_particle
47
48 !**** Essential particle type
49 type, public, bind(c) :: essential_particle !$fdps EPI,EPJ
50     !$fdps copyFromFP full_particle (id,id) (pos,pos) (vel,vel) (mass,
51         mass) (smth,smth) (dens,dens) (pres,pres) (snds,snds)
52     integer(kind=c_long_long) :: id
53     type(fdps_f64vec) :: pos !$fdps position
54     type(fdps_f64vec) :: vel
55     real(kind=c_double) :: mass !$fdps charge
56     real(kind=c_double) :: smth !$fdps rsearch
57     real(kind=c_double) :: dens
58     real(kind=c_double) :: pres
59     real(kind=c_double) :: snds
60 end type essential_particle
61
62 !* Public routines
63 public :: W
64 public :: gradW
65 public :: calc_density
66 public :: calc_hydro_force
67
68 contains
69
70 !-----
71 pure function W(dr,h)
72     implicit none
73     real(kind=c_double) :: W
74     type(fdps_f64vec), intent(in) :: dr
75     real(kind=c_double), intent(in) :: h
76     !$ Local variables
77     real(kind=c_double) :: s,s1,s2
78
79     s = dsqrt(dr%x*dr%x &

```

```

79          +dr%y*dr%y &
80          +dr%z*dr%z)/h
81      s1 = 1.0d0 - s
82      if (s1 < 0.0d0) s1 = 0.0d0
83      s2 = 0.5d0 - s
84      if (s2 < 0.0d0) s2 = 0.0d0
85      W = (s1*s1*s1) - 4.0d0*(s2*s2*s2)
86      W = W * 16.0d0/(pi*h*h*h)
87
88  end function W
89
90  !-----
91  pure function gradW(dr,h)
92      implicit none
93      type(fdps_f64vec) :: gradW
94      type(fdps_f64vec), intent(in) :: dr
95      real(kind=c_double), intent(in) :: h
96      !* Local variables
97      real(kind=c_double) :: dr_abs,s,s1,s2,coef
98
99      dr_abs = dsqrt(dr%x*dr%x &
100                  +dr%y*dr%y &
101                  +dr%z*dr%z)
102      s = dr_abs/h
103      s1 = 1.0d0 - s
104      if (s1 < 0.0d0) s1 = 0.0d0
105      s2 = 0.5d0 - s
106      if (s2 < 0.0d0) s2 = 0.0d0
107      coef = - 3.0d0*(s1*s1) + 12.0d0*(s2*s2)
108      coef = coef * 16.0d0/(pi*h*h*h)
109      coef = coef / (dr_abs*h + 1.0d-6*h)
110      gradW%x = dr%x * coef
111      gradW%y = dr%y * coef
112      gradW%z = dr%z * coef
113
114  end function gradW
115
116  !**** Interaction function
117  subroutine calc_density(ep_i,n_ip,ep_j,n_jp,f) bind(c)
118      integer(kind=c_int), intent(in), value :: n_ip,n_jp
119      type(essential_particle), dimension(n_ip), intent(in) :: ep_i
120      type(essential_particle), dimension(n_jp), intent(in) :: ep_j
121      type(dens_force), dimension(n_ip), intent(inout) :: f
122      !* Local variables
123      integer(kind=c_int) :: i,j
124      type(fdps_f64vec) :: dr
125
126      do i=1,n_ip
127          f(i)%dens = 0.0d0
128          do j=1,n_jp
129              dr%x = ep_j(j)%pos%x - ep_i(i)%pos%x
130              dr%y = ep_j(j)%pos%y - ep_i(i)%pos%y
131              dr%z = ep_j(j)%pos%z - ep_i(i)%pos%z
132              f(i)%dens = f(i)%dens &
133                  + ep_j(j)%mass * W(dr,ep_i(i)%smth)

```

```

134         end do
135     end do
136
137     end subroutine calc_density
138
139     !**** Interaction function
140     subroutine calc_hydro_force(ep_i,n_ip,ep_j,n_jp,f) bind(c)
141         integer(kind=c_int), intent(in), value :: n_ip,n_jp
142         type(essential_particle), dimension(n_ip), intent(in) :: ep_i
143         type(essential_particle), dimension(n_jp), intent(in) :: ep_j
144         type(hydro_force), dimension(n_ip), intent(inout) :: f
145         !* Local parameters
146         real(kind=c_double), parameter :: C_CFL=0.3d0
147         !* Local variables
148         integer(kind=c_int) :: i,j
149         real(kind=c_double) :: mass_i,mass_j,smth_i,smth_j, &
150                                dens_i,dens_j,pres_i,pres_j, &
151                                sn ds_i,sn ds_j
152         real(kind=c_double) :: povrho2_i,povrho2_j, &
153                                v_sig_max,dr_dv,w_ij,v_sig,AV
154         type(fdps_f64vec) :: pos_i,pos_j,vel_i,vel_j, &
155                                dr,dv,gradW_ij
156
157     do i=1,n_ip
158         !* Zero-clear
159         v_sig_max = 0.0d0
160         !* Extract i-particle info.
161         pos_i = ep_i(i)%pos
162         vel_i = ep_i(i)%vel
163         mass_i = ep_i(i)%mass
164         smth_i = ep_i(i)%smth
165         dens_i = ep_i(i)%dens
166         pres_i = ep_i(i)%pres
167         sn ds_i = ep_i(i)%sn ds
168         povrho2_i = pres_i/(dens_i*dens_i)
169         do j=1,n_jp
170             !* Extract j-particle info.
171             pos_j%x = ep_j(j)%pos%x
172             pos_j%y = ep_j(j)%pos%y
173             pos_j%z = ep_j(j)%pos%z
174             vel_j%x = ep_j(j)%vel%x
175             vel_j%y = ep_j(j)%vel%y
176             vel_j%z = ep_j(j)%vel%z
177             mass_j = ep_j(j)%mass
178             smth_j = ep_j(j)%smth
179             dens_j = ep_j(j)%dens
180             pres_j = ep_j(j)%pres
181             sn ds_j = ep_j(j)%sn ds
182             povrho2_j = pres_j/(dens_j*dens_j)
183             !* Compute dr & dv
184             dr%x = pos_i%x - pos_j%x
185             dr%y = pos_i%y - pos_j%y
186             dr%z = pos_i%z - pos_j%z
187             dv%x = vel_i%x - vel_j%x
188             dv%y = vel_i%y - vel_j%y

```

```

189      dv%z = vel_i%z - vel_j%z
190      !* Compute the signal velocity
191      dr_dv = dr%x * dv%x + dr%y * dv%y + dr%z * dv%z
192      if (dr_dv < 0.0d0) then
193          w_ij = dr_dv / sqrt(dr%x * dr%x + dr%y * dr%y + dr%z * dr%z
194                          )
195      else
196          w_ij = 0.0d0
197      end if
198      v_sig = snds_i + snds_j - 3.0d0 * w_ij
199      v_sig_max = max(v_sig_max, v_sig)
200      !* Compute the artificial viscosity
201      AV = - 0.5d0*v_sig*w_ij / (0.5d0*(dens_i+dens_j))
202      !* Compute the average of the gradients of kernel
203      gradW_ij = 0.5d0 * (gradW(dr,smth_i) + gradW(dr,smth_j))
204      !* Compute the acceleration and the heating rate
205      f(i)%acc%x = f(i)%acc%x - mass_j*(povrho2_i+povrho2_j+AV)*
206                      gradW_ij%x
207      f(i)%acc%y = f(i)%acc%y - mass_j*(povrho2_i+povrho2_j+AV)*
208                      gradW_ij%y
209      f(i)%acc%z = f(i)%acc%z - mass_j*(povrho2_i+povrho2_j+AV)*
210                      gradW_ij%z
211      f(i)%eng_dot = f(i)%eng_dot &
212                      + mass_j * (povrho2_i + 0.5d0*AV) &
213                      *(dv%x * gradW_ij%x &
214                      +dv%y * gradW_ij%y &
215                      +dv%z * gradW_ij%z)
216      end do
217      f(i)%dt = C_CFL*2.0d0*smth_i/(v_sig_max*kernel_support_radius)
218  end do
219  ! [IMPORTANT NOTE]
220  !   In the innermost loop, we use the components of vectors
221  !   directly for vector operations because of the following
222  !   reason. Except for intel compilers with '-ipo' option,
223  !   most of Fortran compilers use function calls to perform
224  !   vector operations like rij = x - ep_j(j)%pos.
225  !   This significantly slow downs the speed of the code.
226  !   By using the components of vector directly, we can avoid
227  !   these function calls.
228
229  end subroutine calc_hydro_force
230
231 end module user_defined_types

```

Listing 36: 固定長 SPH シミュレーションのサンプルコード (f\_main.F90)

```

1  !-----
2  !////////// < M A I N   R O U T I N E > //////////
3  !-----
4  subroutine f_main()
5      use fdps_vector
6      use fdps_module
7      use user_defined_types
8      implicit none
9      !* Local parameters
10     !-(force parameters)

```

```

11  real, parameter :: theta = 0.5
12  integer, parameter :: n_leaf_limit = 8
13  integer, parameter :: n_group_limit = 64
14  !-(domain decomposition)
15  real, parameter :: coef_ema=0.3
16  !-(IO)
17  integer, parameter :: output_interval=10
18  !* Local variables
19  integer :: i,j,k,ierr
20  integer :: nstep
21  integer :: psys_num,dinfo_num
22  integer :: dens_tree_num,hydro_tree_num
23  integer :: ntot,nloc
24  logical :: clear
25  double precision :: time,dt,end_time
26  type(fdps_f64vec) :: pos_ll,pos_ul
27  type(fdps_controller) :: fdps_ctrl
28  type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
29  type(c_funptr) :: pfunc_ep_ep
30  !-(IO)
31  character(len=64) :: filename
32  !* External routines
33  double precision, external :: get_timestep
34
35  !* Initialize FDPS
36  call fdps_ctrl%PS_Initialize()
37
38  !* Make an instance of ParticleSystem and initialize it
39  call fdps_ctrl%create_psys(psys_num,'full_particle')
40  call fdps_ctrl%init_psys(psys_num)
41
42  !* Make an initial condition and initialize the particle system
43  call setup_IC(fdps_ctrl,psys_num,end_time,pos_ll,pos_ul)
44
45  !* Make an instance of DomainInfo and initialize it
46  call fdps_ctrl%create_dinfo(dinfo_num)
47  call fdps_ctrl%init_dinfo(dinfo_num,coef_ema)
48  call fdps_ctrl%set_boundary_condition(dinfo_num,fdps_bc_periodic_xyz)
49  call fdps_ctrl%set_pos_root_domain(dinfo_num,pos_ll,pos_ul)
50
51  !* Perform domain decomposition and exchange particles
52  call fdps_ctrl%decompose_domain_all(dinfo_num,psys_num)
53  call fdps_ctrl%exchange_particle(psys_num,dinfo_num)
54
55  !* Make two tree structures
56  ntot = fdps_ctrl%get_nptcl_glb(psys_num)
57  !** dens_tree (used for the density calculation)
58  call fdps_ctrl%create_tree(dens_tree_num, &
59                          "Short,dens_force,essential_particle,
60                          essential_particle,Gather")
61  call fdps_ctrl%init_tree(dens_tree_num,3*ntot,theta, &
62                          n_leaf_limit,n_group_limit)
63
64  !** hydro_tree (used for the force calculation)
65  call fdps_ctrl%create_tree(hydro_tree_num, &

```

```

65                                     "Short,hydro_force,essential_particle,
66                                     essential_particle,Symmetry")
67     call fdps_ctrl%init_tree(hydro_tree_num,3*ntot,theta, &
68                             n_leaf_limit,n_group_limit)
69
70     /* Compute density, pressure, acceleration due to pressure gradient
71     pfunc_ep_ep = c_funloc(calc_density)
72     call fdps_ctrl%calc_force_all_and_write_back(dens_tree_num, &
73                                                  pfunc_ep_ep, &
74                                                  psys_num, &
75                                                  dinfo_num)
76
77     call set_pressure(fdps_ctrl,psys_num)
78     pfunc_ep_ep = c_funloc(calc_hydro_force)
79     call fdps_ctrl%calc_force_all_and_write_back(hydro_tree_num, &
80                                                  pfunc_ep_ep, &
81                                                  psys_num, &
82                                                  dinfo_num)
83
84     /* Get timestep
85     dt = get_timestep(fdps_ctrl,psys_num)
86
87     /* Main loop for time integration
88     nstep = 0; time = 0.0d0
89     do
90         /* Leap frog: Initial Kick & Full Drift
91         call initial_kick(fdps_ctrl,psys_num,dt)
92         call full_drift(fdps_ctrl,psys_num,dt)
93
94         /* Adjust the positions of the SPH particles that run over
95         ! the computational boundaries.
96         call fdps_ctrl%adjust_pos_into_root_domain(psys_num,dinfo_num)
97
98         /* Leap frog: Predict
99         call predict(fdps_ctrl,psys_num,dt)
100
101         /* Perform domain decomposition and exchange particles again
102         call fdps_ctrl%decompose_domain_all(dinfo_num,psys_num)
103         call fdps_ctrl%exchange_particle(psys_num,dinfo_num)
104
105         /* Compute density, pressure, acceleration due to pressure gradient
106         pfunc_ep_ep = c_funloc(calc_density)
107         call fdps_ctrl%calc_force_all_and_write_back(dens_tree_num, &
108                                                  pfunc_ep_ep, &
109                                                  psys_num, &
110                                                  dinfo_num)
111
112         call set_pressure(fdps_ctrl,psys_num)
113         pfunc_ep_ep = c_funloc(calc_hydro_force)
114         call fdps_ctrl%calc_force_all_and_write_back(hydro_tree_num, &
115                                                  pfunc_ep_ep, &
116                                                  psys_num, &
117                                                  dinfo_num)
118
119         /* Get a new timestep
120         dt = get_timestep(fdps_ctrl,psys_num)
121
122         /* Leap frog: Final Kick

```

```

119     call final_kick(fdps_ctrl,psys_num,dt)
120
121     !* Output result files
122     if (mod(nstep,output_interval) == 0) then
123         call output(fdps_ctrl,psys_num,nstep)
124         call check_cnsrvd_vars(fdps_ctrl,psys_num)
125     end if
126
127     !* Output information to STDOUT
128     if (fdps_ctrl%get_rank() == 0) then
129         write(*,200)time,nstep
130         200 format("====="/ &
131                  "time_===",1es25.16e3/ &
132                  "nstep_=",i6/ &
133                  "=====")
134     end if
135
136     !* Termination condition
137     if (time >= end_time) exit
138
139     !* Update time & step
140     time = time + dt
141     nstep = nstep + 1
142
143 end do
144 call fdps_ctrl%ps_finalize()
145 stop 0
146
147 !* Finalize FDPS
148 call fdps_ctrl%PS_Finalize()
149
150 end subroutine f_main
151
152 !-----
153 !//////////////////// S U B R O U T I N E //////////////////////
154 !//////////////////// < S E T U P _ I C > //////////////////////
155 !-----
156 subroutine setup_IC(fdps_ctrl,psys_num,end_time,pos_ll,pos_ul)
157     use fdps_vector
158     use fdps_module
159     use user_defined_types
160     implicit none
161     type(fdps_controller), intent(IN) :: fdps_ctrl
162     integer, intent(IN) :: psys_num
163     double precision, intent(inout) :: end_time
164     type(fdps_f64vec) :: pos_ll,pos_ul
165     !* Local variables
166     integer :: i
167     integer :: nprocs,myrank
168     integer :: nptcl_glb
169     double precision :: dens_L,dens_R,eng_L,eng_R
170     double precision :: x,y,z,dx,dy,dz
171     double precision :: dx_tgt,dy_tgt,dz_tgt
172     type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
173     character(len=64) :: fname

```

```

174
175     !* Get # of MPI processes and rank number
176     nprocs = fdps_ctrl%get_num_procs()
177     myrank = fdps_ctrl%get_rank()
178
179     !* Set the box size
180     pos_ll%x = 0.0d0
181     pos_ll%y = 0.0d0
182     pos_ll%z = 0.0d0
183     pos_ul%x = 1.0d0
184     pos_ul%y = pos_ul%x / 8.0d0
185     pos_ul%z = pos_ul%x / 8.0d0
186
187     !* Make an initial condition at RANK 0
188     if (myrank == 0) then
189         !* Set the left and right states
190         dens_L = 1.0d0
191         eng_L  = 2.5d0
192         dens_R = 0.5d0
193         eng_R  = 2.5d0
194         !* Set the separation of particle of the left state
195         dx = 1.0d0 / 128.0d0
196         dy = dx
197         dz = dx
198         !* Set the number of local particles
199         nptcl_glb = 0
200         !** (1) Left-half
201         x = 0.0d0
202         do
203             y = 0.0d0
204             do
205                 z = 0.0d0
206                 do
207                     nptcl_glb = nptcl_glb + 1
208                     z = z + dz
209                     if (z >= pos_ul%z) exit
210                 end do
211                 y = y + dy
212                 if (y >= pos_ul%y) exit
213             end do
214             x = x + dx
215             if (x >= 0.5d0*pos_ul%x) exit
216         end do
217         write(*,*) 'nptcl_glb(L) = ', nptcl_glb
218         !** (2) Right-half
219         x = 0.5d0*pos_ul%x
220         do
221             y = 0.0d0
222             do
223                 z = 0.0d0
224                 do
225                     nptcl_glb = nptcl_glb + 1
226                     z = z + dz
227                     if (z >= pos_ul%z) exit
228                 end do

```



```

229         y = y + dy
230         if (y >= pos_ul%y) exit
231     end do
232     x = x + (dens_L/dens_R)*dx
233     if (x >= pos_ul%x) exit
234 end do
235 write(*,*) 'nptcl_glb(L+R)□=□', nptcl_glb
236 !** Place SPH particles
237 call fdps_ctrl%set_nptcl_loc(psys_num, nptcl_glb)
238 call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num, ptcl)
239 i = 0
240 !** (1) Left-half
241 x = 0.0d0
242 do
243     y = 0.0d0
244     do
245         z = 0.0d0
246         do
247             i = i + 1
248             ptcl(i)%id      = i
249             ptcl(i)%pos%x   = x
250             ptcl(i)%pos%y   = y
251             ptcl(i)%pos%z   = z
252             ptcl(i)%dens    = dens_L
253             ptcl(i)%eng     = eng_L
254             z = z + dz
255             if (z >= pos_ul%z) exit
256         end do
257         y = y + dy
258         if (y >= pos_ul%y) exit
259     end do
260     x = x + dx
261     if (x >= 0.5d0*pos_ul%x) exit
262 end do
263 write(*,*) 'nptcl(L)□□□□=□', i
264 !** (2) Right-half
265 x = 0.5d0*pos_ul%x
266 do
267     y = 0.0d0
268     do
269         z = 0.0d0
270         do
271             i = i + 1
272             ptcl(i)%id      = i
273             ptcl(i)%pos%x   = x
274             ptcl(i)%pos%y   = y
275             ptcl(i)%pos%z   = z
276             ptcl(i)%dens    = dens_R
277             ptcl(i)%eng     = eng_R
278             z = z + dz
279             if (z >= pos_ul%z) exit
280         end do
281         y = y + dy
282         if (y >= pos_ul%y) exit
283     end do

```

```

284         x = x + (dens_L/dens_R)*dx
285         if (x >= pos_ul%x) exit
286     end do
287     write(*,*)'nptcl(L+R)□=□',i
288     !* Set particle mass and smoothing length
289     do i=1,nptcl_glb
290         ptcl(i)%mass = 0.5d0*(dens_L+dens_R)      &
291                     * (pos_ul%x*pos_ul%y*pos_ul%z) &
292                     / nptcl_glb
293         ptcl(i)%smth = kernel_support_radius * 0.012d0
294     end do
295
296     !* Check the initial distribution
297     !fname = "initial.dat"
298     !open(unit=9,file=trim(fname),action='write',status='replace')
299     ! do i=1,nptcl_glb
300     !     write(9,'(3es25.16e3)')ptcl(i)%pos%x, &
301     !                               ptcl(i)%pos%y, &
302     !                               ptcl(i)%pos%z
303     ! end do
304     !close(unit=9)
305
306     else
307         call fdps_ctrl%set_nptcl_loc(psys_num,0)
308     end if
309
310     !* Set the end time
311     end_time = 0.12d0
312
313     !* Inform to STDOUT
314     if (fdps_ctrl%get_rank() == 0) then
315         write(*,*)"setup..."
316     end if
317     !call fdps_ctrl%ps_finalize()
318     !stop 0
319
320 end subroutine setup_IC
321
322 !-----
323 !//////////          S U B R O U T I N E          //////////
324 !//////////          < G E T _ T I M E S T E P >          //////////
325 !-----
326 function get_timestep(fdps_ctrl,psys_num)
327     use fdps_vector
328     use fdps_module
329     use user_defined_types
330     implicit none
331     real(kind=c_double) :: get_timestep
332     type(fdps_controller), intent(in) :: fdps_ctrl
333     integer, intent(in) :: psys_num
334     !* Local variables
335     integer :: i,nptcl_loc
336     type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
337     real(kind=c_double) :: dt_loc
338

```

```

339      !* Get # of local particles
340      nptcl_loc = fdps_ctrl%get_nptcl_loc(psys_num)
341
342      !* Get the pointer to full particle data
343      call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
344      dt_loc = 1.0d30
345      do i=1,nptcl_loc
346          dt_loc = min(dt_loc, ptcl(i)%dt)
347      end do
348      nullify(ptcl)
349
350      !* Reduction
351      call fdps_ctrl%get_min_value(dt_loc,get_timestep)
352
353 end function get_timestep
354
355 !-----
356 !///////////////////////      S U B R O U T I N E      /////////////////////////
357 !/////////////////////// < I N I T I A L _ K I C K > /////////////////////////
358 !-----
359 subroutine initial_kick(fdps_ctrl,psys_num,dt)
360     use fdps_vector
361     use fdps_module
362     use user_defined_types
363     implicit none
364     type(fdps_controller), intent(in) :: fdps_ctrl
365     integer, intent(in) :: psys_num
366     double precision, intent(in) :: dt
367     !* Local variables
368     integer :: i,nptcl_loc
369     type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
370
371     !* Get # of local particles
372     nptcl_loc = fdps_ctrl%get_nptcl_loc(psys_num)
373
374     !* Get the pointer to full particle data
375     call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
376     do i=1,nptcl_loc
377         ptcl(i)%vel_half = ptcl(i)%vel + 0.5d0 * dt * ptcl(i)%acc
378         ptcl(i)%eng_half = ptcl(i)%eng + 0.5d0 * dt * ptcl(i)%eng_dot
379     end do
380     nullify(ptcl)
381
382 end subroutine initial_kick
383
384 !-----
385 !///////////////////////      S U B R O U T I N E      /////////////////////////
386 !/////////////////////// < F U L L _ D R I F T > /////////////////////////
387 !-----
388 subroutine full_drift(fdps_ctrl,psys_num,dt)
389     use fdps_vector
390     use fdps_module
391     use user_defined_types
392     implicit none
393     type(fdps_controller), intent(in) :: fdps_ctrl

```



```

449     implicit none
450     type(fdps_controller), intent(in) :: fdps_ctrl
451     integer, intent(in) :: psys_num
452     double precision, intent(in) :: dt
453     !* Local variables
454     integer :: i,nptcl_loc
455     type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
456
457     !* Get # of local particles
458     nptcl_loc = fdps_ctrl%get_nptcl_loc(psys_num)
459
460     !* Get the pointer to full particle data
461     call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
462     do i=1,nptcl_loc
463         ptcl(i)%vel = ptcl(i)%vel_half + 0.5d0 * dt * ptcl(i)%acc
464         ptcl(i)%eng = ptcl(i)%eng_half + 0.5d0 * dt * ptcl(i)%eng_dot
465     end do
466     nullify(ptcl)
467
468 end subroutine final_kick
469
470 !-----
471 !//////////////////////      S U B R O U T I N E      ////////////////////////
472 !////////////////////// < S E T _ P R E S S U R E >  ////////////////////////
473 !-----
474 subroutine set_pressure(fdps_ctrl,psys_num)
475     use fdps_vector
476     use fdps_module
477     use user_defined_types
478     implicit none
479     type(fdps_controller), intent(in) :: fdps_ctrl
480     integer, intent(in) :: psys_num
481     !* Local parameters
482     double precision, parameter :: hcr=1.4d0
483     !* Local variables
484     integer :: i,nptcl_loc
485     type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
486
487     !* Get # of local particles
488     nptcl_loc = fdps_ctrl%get_nptcl_loc(psys_num)
489
490     !* Get the pointer to full particle data
491     call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
492     do i=1,nptcl_loc
493         ptcl(i)%pres = (hcr - 1.0d0) * ptcl(i)%dens * ptcl(i)%eng
494         ptcl(i)%snds = dsqrt(hcr * ptcl(i)%pres / ptcl(i)%dens)
495     end do
496     nullify(ptcl)
497
498 end subroutine set_pressure
499
500 !-----
501 !//////////////////////      S U B R O U T I N E      ////////////////////////
502 !//////////////////////      < O U T P U T >          ////////////////////////
503 !-----

```

```

504 subroutine output(fdps_ctrl,psys_num,nstep)
505   use fdps_vector
506   use fdps_module
507   use user_defined_types
508   implicit none
509   type(fdps_controller), intent(IN) :: fdps_ctrl
510   integer, intent(IN) :: psys_num
511   integer, intent(IN) :: nstep
512   !* Local parameters
513   character(len=16), parameter :: root_dir="result"
514   character(len=16), parameter :: file_prefix_1st="snap"
515   character(len=16), parameter :: file_prefix_2nd="proc"
516   !* Local variables
517   integer :: i,nptcl_loc
518   integer :: myrank
519   character(len=5) :: file_num,proc_num
520   character(len=64) :: cmd,sub_dir,fname
521   type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
522
523   !* Get the rank number
524   myrank = fdps_ctrl%get_rank()
525
526   !* Get # of local particles
527   nptcl_loc = fdps_ctrl%get_nptcl_loc(psys_num)
528
529   !* Get the pointer to full particle data
530   call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
531
532   !* Output
533   write(file_num,"(i5.5)")nstep
534   write(proc_num,"(i5.5)")myrank
535   fname = trim(root_dir) // "/" &
536           // trim(file_prefix_1st) // file_num // "-" &
537           // trim(file_prefix_2nd) // proc_num // ".dat"
538   open(unit=9,file=trim(fname),action='write',status='replace')
539   do i=1,nptcl_loc
540     write(9,100)ptcl(i)%id,ptcl(i)%mass, &
541                ptcl(i)%pos%x,ptcl(i)%pos%y,ptcl(i)%pos%z, &
542                ptcl(i)%vel%x,ptcl(i)%vel%y,ptcl(i)%vel%z, &
543                ptcl(i)%dens,ptcl(i)%eng,ptcl(i)%pres
544     100 format(i8,1x,10e25.16e3)
545   end do
546   close(unit=9)
547   nullify(ptcl)
548
549 end subroutine output
550
551 !-----
552 !///////////////////////      S U B R O U T I N E      /////////////////////////
553 !/////////////////////// < C H E C K _ C N S R V D _ V A R S > /////////////////////////
554 !-----
555 subroutine check_cnsrvd_vars(fdps_ctrl,psys_num)
556   use fdps_vector
557   use fdps_module
558   use user_defined_types

```

---

```
559  implicit none
560  type(fdps_controller), intent(in) :: fdps_ctrl
561  integer, intent(in) :: psys_num
562  !* Local variables
563  integer :: i,nptcl_loc
564  type(full_particle), dimension(:), pointer :: ptcl
565  type(fdps_f64vec) :: mom_loc,mom
566  real(kind=c_double) :: eng_loc,eng
567
568  !* Get # of local particles
569  nptcl_loc = fdps_ctrl%get_nptcl_loc(psys_num)
570
571  !* Get the pointer to full particle data
572  call fdps_ctrl%get_psys_fptr(psys_num,ptcl)
573  mom_loc = 0.0d0; eng_loc = 0.0d0
574  do i=1,nptcl_loc
575      mom_loc = mom_loc + ptcl(i)%vel * ptcl(i)%mass
576      eng_loc = eng_loc + ptcl(i)%mass &
577                  *(ptcl(i)%eng &
578                    +0.5d0*ptcl(i)%vel*ptcl(i)%vel)
579  end do
580  nullify(ptcl)
581
582  !* Reduction & output
583  call fdps_ctrl%get_sum(eng_loc,eng)
584  call fdps_ctrl%get_sum(mom_loc%x,mom%x)
585  call fdps_ctrl%get_sum(mom_loc%y,mom%y)
586  call fdps_ctrl%get_sum(mom_loc%z,mom%z)
587  if (fdps_ctrl%get_rank() == 0) then
588      write(*,100)eng
589      write(*,100)mom%x
590      write(*,100)mom%y
591      write(*,100)mom%z
592      100 format(1es25.16e3)
593  end if
594
595  end subroutine check_cnsrwd_vars
```

---

## 6 ユーザーサポート

FDPS を使用したコード開発に関する相談は [fdps-support<at>mail.jmlab.jp](mailto:fdps-support@mail.jmlab.jp) で受け付けています (<at>は@に変更お願い致します)。以下のような場合は各項目毎の対応をお願いします。

### 6.1 コンパイルできない場合

ユーザーには以下の情報提供をお願いします。

- コンパイル環境
- コンパイル時に出力されるエラーメッセージ
- ソースコード (可能ならば)

### 6.2 コードがうまく動かない場合

ユーザーには以下の情報提供をお願いします。

- 実行環境
- 実行時に出力されるエラーメッセージ
- ソースコード (可能ならば)

### 6.3 その他

思い通りの性能がでない場合やその他の相談なども、上のメールアドレスにお知らせください。



## 7 ライセンス

MIT ライセンスに準ずる。標準機能のみ使用する場合は、Iwasawa et al. (PASJ, 68, 54)、Namekata et al. (in prep) の引用をお願いします。

拡張機能の Particle Mesh クラスは GreeM コード (開発者: 石山智明、似鳥啓吾) (Ishiyama, Fukushige & Makino 2009, Publications of the Astronomical Society of Japan, 61, 1319; Ishiyama, Nitadori & Makino, 2012 SC'12 Proceedings of the International Conference on High Performance Computing, Networking Storage and Analysis, No. 5) のモジュールを使用している。GreeM コードは Yoshikawa & Fukushige (2005, Publications of the Astronomical Society of Japan, 57, 849) で書かれたコードをベースとしている。Particle Mesh クラスを使用している場合は、上記 3 つの文献の引用をお願いします。

拡張機能のうち x86 版 Phantom-GRAPe を使用する場合は Tanikawa et al. (2012, New Astronomy, 17, 82) と Tanikawa et al. (2012, New Astronomy, 19, 74) の引用をお願いします。

Copyright (c) <2015-> <FDPS development team>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the “Software”), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS”, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.